

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-13

## 徳川幕末不動産法

---

(発行年 / Year)

1910

中田善一稿

徳川幕末不動産法

德川幕末不動産法

目次

(一) 売買

(イ) 永代賣

(ロ) 年季賣

譲渡 附寄附地

(三) 質入 附

(イ) 質地

(ロ) 家質

書入

小作 附新山請込

(六) 地借 附店借 附持借地

以上

二 賣買

一、不動産ノ賣買ニハ永代賣ト年季賣トノ二種アリ又其目的物ノ種類ニ依テ絶対ニ賣買ノ自由ヲ欠ク者ト永代賣ニ限テ禁止サレタル者トニアリ

二、絶対ニ賣買ノ自由ヲ欠ク者ハ并欲地、組屋敷、赤朱印地寺社領等ニシテ永代賣買ニ限テ禁止サレタル者ハ百姓所有ノ田地及畑地ナリ但シ年貢萬ノ登録ナキ開闢新田畑及ビ百姓以外浪人侍等ノ所有ニ属スル田畑ハ禁制ノ限ニ非ズ

(イ) 永代賣

一、永代賣トハ絶対ニ所有權ヲ移轉スル賣買ヲ云フ其目的物ハ永代賣ノ自由アル者ニ限ル

二、永代賣ニハ公吏ノ加判シタル謄文ノ作成アルコトヲ必要トス又賣買が終了シタルトキハ當事者ハ其不動産ノ名義書替リ申請スルコトヲ要ス

決定書

(三十田畑永代賣買並隠地ノ地仕候もの御仕置之事  
定章ニ依テ  
一田畑永代に賣候もの  
賣人  
過料  
加判ニ名主  
役候取上  
證人  
此

同  
一 同管候もの

従前ノ之例  
一 高請無之開闢新田畑其外浪人  
侍等所持止田畑

永代賣無構

永代賣之田畑取上

(以下略)

〔大成令〕

慶應四年三月

家賣買之儀名主五人組加判可致事

一家賣買之儀ハ町也名主五人組加判に賣買可仕候家守

留守居致吟味手形取可申候總令借屋にても諸券候上公

事出候共斯也とて濟さば可被仰付事

以曆二申年三月

家屋敷之儀五人組見由候上名主五人組之加判を以

賣買可致事

一町中に家屋敷買候ハ名主五人組所は銘々参候ハ五

人組能々見由相改慥存和候上名主五人組之加判を以

諸券狀家屋敷賣買可仕事

一名主五人組候とて其五人組寄聲も不仕家屋敷買取以

後に出入罷成ハさき申付間敷事此趣ハ町中にて五人組

之にせ手形を致家之賣買候改如此相觸候向而後能々候

儀仕買候者自身参名<sup>主</sup>五人組改手形取可申者也

〔地方白例録〕一讓田地之事 (前略)何れも讓地或ハ質

流又ハ山林町屋敷等買請<sup>主</sup>之時ハ早速名主五人組に断

當時之持名<sup>主</sup>名前ニ名寄帳書改可申若名前書改無之

分出入等成ハ取上地ニ以定法

○元ニ参考<sup>主</sup>為メ町屋敷代賣之因ニ古文書ヲ採録ス

バシ(一)當事者間ニ受取授<sup>主</sup>之賣渡證文ニテ(二)賣

買給<sup>主</sup>了<sup>主</sup>旨當事者双方ヨリ名主ハ届出<sup>主</sup>之文書ヨリ

〔當事者間ニ受授<sup>主</sup>之賣渡證文

永代賣渡申家屋鋪之事

一南紺屋町西側北河岸角、三軒目表京間九間或尺四寸  
裏行同町並有之我等所持之家屋此度代金七百九拾  
兩、貴殿江和代意後則五人組名王立合右代室不致  
慥、請取申処望正也以家屋敷從

海公儀様持鐘地、亦、無離座尤諸親類之不及申  
何方、も搦申者無之、以若遠、乱申者有之、以、我等  
并加判之者罷出急度持明申、以、為後日永代者  
券狀仍如件

天保二年正月廿日

家名鋪  
表主 又兵衛 〇  
五人組 文右衛門 〇  
同 表治郎 〇  
日 重助 〇  
名主 源次郎 〇

伊勢屋  
鐵藏殿

一 札之事

一 札之事

一南紺屋町西側北河岸東角、三軒目表京間九間或尺四寸  
裏行同町並有之我等所持之家屋敷此度代金七百  
九拾兩、津町家持鎌藏方江和代意後則代金不致  
慥、請取申処相違無而登諸親類之不及申外、遠  
乱申者無而登、以、若異、申者有之、以、拙者若何  
方追、も罷出急度申披、以、任、以、為後日仍如件、

天保二年正月廿日

三田町目家持  
表主 又兵衛 〇  
本並町目家持

親類 治郎左衛門〇

乙 四里主 御書

證文之事

一 南紺屋町西側北河岸東角 三軒目表高岡九間式足守  
裏行同町並有之又兵衛所持之家屋敷此度代金七百九拾  
兩三錢等方江買請沽券狀之通間敷并地境相改請  
取申以尤町役勤方七分積金河岸買加上納金共  
承知仕以以來所方不相應家作任間鋪以

一 清公儀様清後之不及申町内入目出銀其外一統三儀  
無滞差金可申以

一 家屋敷江相附以家守身元之我等方亦相亂慥成

有相附可申以在家守江前書之趣申間為相守可申以  
且家守退以欲病死致以以跡家守早速相附可申以  
若家守不悖之美清勢以座以之早附替可申以請  
事清船事遠背任間敷以為後日仍心件

天保二癸年二月廿八日

淨助町

買主 銀次 〇

南銀治町言石目

清後店

親類長右衛門 〇

(以上東京府記録課土管家屋敷證文帳 自文政十  
至天保七)

(二) 年季賣

一、年季賣トハ本物返ト云フ徳川以前ニ於テハ年季賣ト本物返(又ハ庄錢返トモ云フ)トハ全ク別種ノ賣買ニシテ年季賣トハ期限付所有権ノ移轉ヲ目的トスル賣買ヲ云ヒ本物返トハ買戻付賣買ヲ云フ然レ徳川時代ニ至テハ兩者ノ區別ハ已ニ消滅シ共ニ買戻付賣買ヲ意味スルニ至レリ

二、年季賣トハ一定ノ期間ヲ定メテ不動産ヲ賣戻シ期間経過後、前ノ代金ヲ支拂フテ所有権ヲ回收スル賣買ナリ期間経過後ノ後賣主ハ其買戻権ヲ行使セザリシ場合ニ於テ不動産ノ運用如何ハ未タ詳ナラス

〔地方凡例録〕年季賣本物返之事、関東ニ而年季賣

之田地を上方筋ニ而本物返トシ不矢張賣地之福成ものば共利足之勘定ニ而作徳之上リ等と考ヘ全高も質上ハ遠い金子を借シ年季を極田地を買取作徳に金之利にシ無利足ニ而借田地ハ全主方江清取キ作而も不才作入る共勝手次第に在し年季時ニ時元金相返し田地取戻之故本物返トシ不地主江田相返ニ付年季賣ハ御法度ニ無之也

〇地方凡例録ノ記ニ依レバ年季賣ト本物返トハ同物異名トカ如シ果シテ當時ヤ否ヤリ知ズ徳川以前ニ於テ兩者ハ全然別種ノモノナリ特ニ関東ノ古文書ニ於テ之ヲ澄明スル

〔下総國香取文書〕

廿年記のりに記し小田北状事記の

合年錢貳貫貳百文者

右件の田坪いとに目せんけん下五反田の内志及を  
昭年はらはらのへ子この年ね北ははくりけもより始はりて來きり  
いんいのと北はひつしの年ねまも貳十年じゅうねん貳十にじゅうはくり  
比間ひま後ご中ちゆう家け実じつのあり若年記わくねんきより内うちに田  
ささいいすすも事こといいりりおおふふししのと田でを立たてて（相）  
いいすす（同）とと一いつつたたと一いつつ徳とく故こいい共ともいいききありまししくく  
仍なほ為な後ごりり状じやうのの件けん

文正貳年いのと比ひ 二月廿日

宗春

妻主（男主）香取

依要用百年き香取中田之状之事

合直錢四世文者

右件の田の坪はら川が四し神かみ内うち平田ひらで貳に反へ及を 明年ねん乙酉いつしゆうの年  
北は作しやう毛もより始はりて來きりりははららののととのの亥がいの年ねん之の作しやうま  
てて十五じゅうご年ねん十五じゅうご作しやうの同どう万まん難なん公こう事じ停止ていししてして四し世せい文ぶん之の  
香取かき中ちゆう家け実じつの也なり若わ彼か田で年ねんききより内うちに相あ違たがひひ  
る事こといいりり同どう不ふとと北は竹たけおお立たてて（可）申まをしし上うへ無なきき  
いいすす本ほん錢ぜにをもつて申まをししくくいいたたと一いつつ公こう家け成じやう成じやうしし御  
徳とく政せい成じやう下げの共とも異い儀ぎ中ちゆう内うちに仍なほ為なるる爲なるる状じやう四し件けん

文正五年あ申まをしし二月十五日

是こうか）

（男）主しゆ（男）主しゆ（漢）

御ご存ぞん本ほんみみああまま大だい方ほう）

依有密用本錢返長置申屋敷狀

合直錢貳貫五百文者

右件三屋敷者新市場井土之上尾近三郎屋敷一所  
を當年候年より始りて來りし御年より十五  
年間滞在存武書より文本錢返長置申屋  
敷正也若年記より中彼屋敷相違仕者本錢  
不との屋敷を立り申し可申し十五年迄は存本錢  
をもつての返可申し以上無所決申し者本錢一  
倍をもつて沙汰可申し間繼又死亡出仕滞徳改  
共於彼屋敷者遠候一言もあましくは仍舊後  
日狀心件

延徳元年庚卯月廿四日

依有用々本錢返長置申屋敷狀

合本錢返長置八百文

右件之島坪川法より島上島二百代下島六十代  
ありて二百六十代迄年之作毛より始りて來り  
て戊午年の作毛迄十四作り同喜返長置申也  
年記過りし本錢お以受返申へり為後日如  
件

天文廿二年壬午月十六日

番主

香取又四郎  
一藤内郎

(二) 讓渡

一、讓渡トハ無償ニテ所有權ヲ移轉スルニ終テノ行為ヲ云フ  
但シ寄附地ヲ降久故ニ今日ノ贈与ノ外遺言ニ依ル遺産  
ノ移轉ヲ云ハム

二、此讓渡ノ當事者ノ身分ニ隨テ著シキ制限ヲ受ケタリヤ  
一ニ不動産ノ讓渡ハ元則トシテ讓渡人ノ親族又ハ特ニ  
由緒ナル者ニ對シテハスニ非シバ違法ナリ亦ニ此等事  
者乃由緒ナキ場合ハ尙モ特ニ法令ニ定ムラレタル者  
ノ旨ニ於テスル控元親ノ讓渡ハ有効ナリ

〔地方凡例録〕讓田地之事、父兄が讓るる田地を親族之  
子孫ニ外に讓渡する分ハ子分といふべし、相互讓渡は舊文村後  
人の申す可取定、在外親類等由緒有る讓渡時礼金

取讓る或ハ無止ナリ、表向ハ讓田地之文書中内、金銀取  
り之ハ小代金同様之由任定ニ成テ法ナリ親族縁者ニモ  
無ク無縁ニ者ハ田相可讓渡謂テ、付若無縁ニ者  
讓地未有之禮文面礼金等ハ文書無ク共及出入吟味又  
時ハ讓渡子細終ニ可ハ亂ル人ハ無由籍田地ヲ讓筋無ク  
尤宗未前ニ者ハ吳ニ價格別ナリ、何キモ讓地或ハ質流  
スハ山林所屬教等質語ニ了時ハ平速若主五人但ハ則  
高時之書是名方ニ名寄帳書改可申、若名方書改無ク  
分出入等ハ取上地といふハ宜也

〔極要永久録〕

寛延二己年二月

屋敷讓渡讓受ノ儀付觸書

一新規抱不敷少者候儀者決可不相成候

一御三家諸大名之始終御目見以上之令由締無之共相  
互に讓渡讓交候様可成候

但抱不敷數ニツ迄不苦候其餘者雜成候只今迄持集  
候分不苦候

一御目見以下陪匠寺社百姓町人より以上之面に讓渡候  
儀由締無之候可相濟候

一御目見以上之面より讓渡候儀に陪匠百姓より由締無之候  
可不苦候寺社町人止者可為無用候

但百姓町人抱不敷圍等上有之候に讓交抱不  
敷致候儀不苦候百姓町持之畑地之讓交抱不  
敷致候儀不可為無用候

一御目見以下陪匠寺社百姓町人由締無之候共相互に

讓渡讓交候様可成候

右三内

一武士より町人に讓渡候儀不可為無用候

一町人より武士に讓渡候儀不可不苦候

一百姓町持三抱不敷之町人に讓渡候儀に雜成候

一手社抱不敷由締無之候共讓換三儀武家町人三無差  
別可相濟候

一總帯抱不敷多百姓に苦候儀に御目見以上以下何方より

新出候共由締無之候可相濟候

一家來り持三抱不敷之主人不敷仕候儀又五人以持  
三抱不敷之家来り苦候儀由締無之候可相濟候

一町が敷禊返之儀は町人より百姓に者難成候

右三通而後不被相心得候

一抱石敷相對替之儀も而後禊返禊受之通相心得可

祇取計候

己二月

三、禊渡之契約又ハ遺言ニ依ッテ成立ス行レ、場合ニ於テモ公吏ノ加判シタル文書ノ作成アルコトヲ要ス必ス又禊返が終了シタルトキハ禊受人ハ宅不動産ノ名義書替ヲ申請スルコトヲ要ス猶所人寫ニ於テスル所及ノ禊返アリシ場合ニハ町内ニ禮金ヲ出シテ弘メリナラ必折トシタリ

地方凡例録一、田畑が敷山林を外禊返之儀存在シ内

遺状ニ記在共名主組頭が年無ク一分マ心決テ記在  
遺状ノ死後ニテ難立尤執款が年有ク分所ニ及後  
人平形無ク共相立事トモあり

〔禊定書〕上

享保五十年

〔五ノ〕讓屋鋪三儀ニ付町觸

家屋敷他人ノ勿論トモ執款ニ讓返候共早速町内ノ不  
及申一敷<sup>は</sup>弘ナ致シ帳面名も改可申候禊返候終<sup>而</sup>不  
念<sup>ハ</sup>れし打捨金重<sup>ハ</sup>及出入往儀之上證據も在無<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>而後  
奉行<sup>ハ</sup>取上<sup>ケ</sup>に成候間右ニ段町中<sup>ニ</sup>可相觸者也

正月

〔禊定書〕下

〔四ノ〕讓屋敷取捌之事

主任 寺子存  
一讓請候所不敷町内之私無之町名  
前不改敷及出入候得也

屋敷取上ル

○参考、為ト老ニ字知鋪薩返ノ古名書ヲ採得スレド  
一倒、生若カ為ニ依テ父カ子ニ讓返シタレリト場合ニ  
ニ本古書狀ニ縁書ヲナシ讓返ノ旨ヲ記載スレドヤリタ  
二倒、遺言ニ依リ讓返ナリテ三倒、無遺言相續何人  
ニ社ニ相續人未定ノ旨を親族ニ及遠處ニ寄附シ相續  
人確定ノ後讓書ヲテシタレリト四倒、他人召ニ社ニ  
ル燈ヲナク讓返ニ無傍ナリテ元則キテ而モ禮代禮金等  
ノ左枝マハリホトナリ、

一倒

永代寺田中字不鋪事

天保七年四月三日

字不鋪

寺王 寺岳衛

寺大但 佐助

日 善石寺

寺王 佐兵衛

寺七殿

前書之家屋敷寺ヲ以テ寺所持トシテ其許ニ在  
弟共相讓申処空白之ハ後、付諸親族ニ勿論様所  
異礼ナク無之為後證候件

天文三年四月十日

寺王  
寺七事

孫次郎事

半七版

隱人

半兵衛門〇

右ノ通承廟小依之奥下改置小川上

五人但 美右衛門〇

日 焚文印〇

名主 孙次郎御事付

後見 七左衛門

(右東亞府書信記錄主任佐卷收  
自原文  
二十五年)

前二例

儀状之事

一我奉跡式之内所町居定尺敷七々以土積造道具何名  
別故目錄之通全下何而西屋外高妻方取引借付金  
浪是式帳面之通者宗欲誰之讓り在申交云云也  
并之何町掛尺敷七々以全上何而二次男誰一讓り申  
小且又何町掛尺敷七々以之讓り取申小右之通云云  
諸親族申之遺礼申之一人皆無之万一何角と申者出  
来以之此以徒文御取捌申可申小為之讓り伏仍  
申付

年月

何心  
何年

何町事奇

何町何五衛門版

五人但中

(古新橋塩屋節用白字通(上卷)  
町版)

不三例

收代書長中宗初鋪三書

文政十二年七月三日

宗元鋪

喜王 長尾守口  
 主位 徳之助  
 A 滿兵衛  
 川 吉兵衛  
 日 伴兵衛  
 名王 佐兵衛

八兵衛殿

不書之字を鋪甚々而前夫八兵衛計持罷立此處當八月  
 三日病死の多し小付病中中位に通り右字を鋪印形  
 共我身豫堂印持候所候儀存指親親之少及十外八道  
 乱中も無ッ度小出候旨 活看候に總書の多し當小  
 此仍此件

元禄六年十二月十二日

居付、兵衛後家

張堂人 清三郎

東八所協上丁目

安務

教敷 左衛門守口  
 花人

右ノ通承痛小作三奥守い多し宝小以上

主人但 久治郎〇

用 猪熊〇

用 尾吉〇

多吉 佐兵衛〇

右書之家を補きテ我等以指小此以五銀數一用  
相譲し上持ふに江左儀十外京西也此儀付外々違  
乱中々の無也小方修。法来竹は地吉い多し宝中  
此仍切件

居付八兵衛後家

嘉永二年二月三日

藤人 内子〇  
本町崎四丁目

富松

銀數 太郎たつ〇  
主人

安五郎改

八兵衛との

右ノ通承痛山依之奥守い多し宝小以上

主人但 久治郎〇

用 猪熊〇

用 尾吉〇

名立 佐兵衛〇

(右書系符記録源王官信券状自寛文三十二年)

牙四例

永代讓り后ノ田地之事

何ノ通字行々  
一田地合 上田 何所行及  
下田

右ノ田地永年貢米米帳面ノ通ノ田地名我身代ノ所  
指込小畑ノ交米取由儀有之小ノ付誰殿御控投乞  
以爲禱代浪子何費目取老儘之清取中ノ能上ノ右  
田地ノ或存諸款數ノ少及申取ノ付禮礼妨丁老人  
所無之小万一何角ノ中老生来ルノ付中形之石羅出  
急旨持取生之取一火發御~~茶~~難儀懸了留取小取  
後日田地讓記文仍有存

每年月日

讓主 誰  
法人 何所門

誰取

(右新修臨益教會白家園上巻記載)

四 寺社ニ對シテ爲ス土地ノ贈与ヲ寄附ト云フ寄附地ニ關  
舊十二年以來之ヲ禁止トシタリ

(地方凡例條) 寄附地之事 百姓ノ寺社(正田地)寄進ノ  
之凡ノ通ニ寄進地トシ讓田地又ハ寄附地トシ唱(一)所人  
姓ノ寄附ト云名目ノ爲メノ停止也寄附役村方百姓  
並ノ勤里ノ老有ル百姓身社(田地)附メテ不苦勞トシ村役  
等ノ勤振ニシテ凡ハ外禁之旨免身有極トシ(寄附)十二年  
以來經テ寄附地ノ不苦勞トシ仰出前時ノ寺社寄進  
等即停止也)

### ③ 質入

質入ニシテ質地ト家質トノ別アリ田畑ヲ以テ其目的物トシタル場合ハ之ヲ質地ト云ヒ家屋敷ヲ以テシタル場合ニハ之ヲ家質ト云フ兩者各其法律上ノ取扱ヲ異ニシタリ

### 一 質地

一 質地トハ質入ノ目的ニ依セラレタル田地又ハ畑地ヲ云フ質地ノ質取主ハ質置主ガ請戻権ヲ行使セザル期間内其目的物ヲ占有シ及ビ収益スルノ権ヲ有シ又適當ノ期間内請戻権ノ行使ヲキトキハ之ヲ自己ノ所有ニ歸センルルノ権利ヲ有ス

二 質地ハ契約ニ依テ成立スル契約ハ主キ債務ノ契約ニ附随ス而シテ其形式ニ於テモ又實質ニ於テモ合意ナラザル可ク不違法契約ノ結果各個人場合ニ依テ同シカラズ或ハ質入ノミナラズ主キ債務契約ヲモ併セテ許権ヲキモノトシ或ハ全然別種ノ契約ト見做シ猶特定ノ場合ニハ関係者ヲ處罰ス

○ 許権無シトハ無取上裁許不申付等ノ場合ヲ云フヤ場合リ以テ無効ノ謂テリト辭スルト不可ナリ詳細ニ別論ニ詳ル

三 質地ノ契約ニハ必ズ謄文ノ作成ヲルコトヲ要ス其謄文ニハ左ノ事項ヲ記載シ公吏之レニ裁判スルコトヲ必要トス

一 質地ノ字位及別

二十年ヲ越過セザル限入ノ年季若シクハ諸戻文云  
三年月日

四當季者ノ氏名

〔地方凡例録〕一質地證文通法ト諸書質地證文ヲ認字何  
上中下田柵何及何畝何歩何テ而當何之年月来何ノ年マレ  
何ノ年季ニ付定質地入金子何程借用イラシク月年賣  
諸役金主方ニ付可勤年季明元金返済イラシク田柵  
可清戻極ニ年号月付相極地人オ主名主カ判トシ先  
行地文差出金子借請ニ若及別多記文一筆限認カ  
札ニ合及別何町何及歩トイラシ別帳・水帳名寄帳固一  
筆限字位及別相認是又置名主カ判下形ニ付記文・添

置差出ニ是モ小指帳ト云勿論記文ニ別紙ニ拾帳添ハ該  
記入ノ右ニ外年季不限金子有后決可清戻之證文モ有  
又年季明不清戻ハ可改流地旨ニ記文モ有之ヨリ  
一字位無之或モ名主カ中無之又宛下モ年号未無之  
今ハ定外長年季記文之者、是モ何モ不埒證文付  
新出共無取上質地入ル義名主カ印無之ハ其ハ  
名主ノ過料未不存者不及姓名主カ指ニ田柵質入  
セハ相名主ノ下同役無之組款カ中改ハ一無カ中  
分ノ右同也

一證文諸書ニモ質地ト記文之内可清戻義モ年季  
年モ無之不埒證文之事、是モ實ニ永代賣札也  
而傳止ニ傳付證文計質地之様ニ紛シ昔々義ト安

至而不將證文付吟味之上双方共永代差同標之科申付也

一質地字季濟堂之事、是之前、二年季之假限無之拾吾年而或拾上季而、双方對談而極之、以享保六且年以來、二年季拾上季之限り夫、内之季季、勝手、拾上季以上、三年季而停止、或、拾上季以上、三年季、文差出許出、無取上尤其品、寄吟味、付付也

地方大概集

質地證文之事

- 一 質何誰方 高何拾何石
- 一 上田何何反步 高何石何斗
- 一 中田何何反步 高何石何斗
- 一 年何誰方 高何石何斗
- 一 上田何何反步 高何石何斗

右之田相我等所持、有之此處要用之儀、付畏感取次之、以質物之差入、雖何程致借用、則、雖好慥、受取申、處、更正、以、白也、然、上者、未、支、何、月、限、雖、相、違、い、ふ、し、く、以、田、相、清、戻、し、可、申、第、一、限、月、相、滞、り、無、異、後、村、方、帳、面、切、替、其、元、相、渡、可、申、能、其、節、一、言、之、處、指、申、向、鋪、依、尤、在、年、限、中、御、年、貢、諸、役、具、元、亦、相、勤、可、被、申、為、後、日、質、入、在、文、依、而、如、件

年号月

質主何村  
誰印  
請入何村  
誰印

何村  
誰啟

表書

表書之通、取、高、相、處、無、之、候、以上

何村庄名

誰印

年寄

誰印

一字位無之或名主無加印又或宛以無之年号無之御定  
之外長年本證文之手、(本文凡創録二周)但庄屋役判  
無之質地證文并小作證文無之質地之分て僅屋銀之准  
代と大改三方取斗書。見(天あり)

〔御定書〕上

又文三、年  
五、三、質地書付觸書

一名主加判無之質地證文之事

一名主置候質地、相名主又、組頭等之役人加判無之證

文之事

一拾、年季之越候質地證文之事

右三個條之儀并田畑永代書買又、地主より年貢諸役之  
勤金主、年貢之不勤質地之類、前々より御停止、而村  
方上人組帳之書託有之處右之通之不埒之證文を以許  
出候も有之候、自今上人組帳名主庄屋等より大小之百  
姓等に度、為替聞不致志打様可仕候

(中略)

石之通材、而可相心得者也

(下略)

二月

〔御定書〕下

元天三年花  
一、拾、年、以上、年季、質地

實保三年柱

一、質地、名所、年、位、又、別、無、之、或、名主、加、印、無、之、不、埒、證、文

無取上

年季之無差列無取上

名主區料尤名主質入

之候不存證文之於不致

加印不及外

但在金主地主宗廟相對之上地主在定水帳可  
相改旨名至江可申渡尤名主質地相名主無之村  
方組頭加印於有之定法之通濟方可申付

〔科條類典〕

寛保元酉年七月町奉行町書拔來候例書之内

永代賣之例

享和三年七月四日

一小澤孫治右衛門知行所武州三ヶ尻村六左衛門と同村  
長兵衛田地賣渡候證文永代賣之文云々雖無之  
不限年季可請返之文云々無之永代賣依為同

前賣主長兵衛六月四日申合證大男主力同六日定年  
合金子為改換右田地取上之賣主之地頭如先規可欲  
知旨申渡之六左衛門伊兵衛同十四日合出年在江上  
同廿五日長兵衛出牢之上所直放申付人家財關之  
之不及沙汰

〔諸伺下知留〕

享和九年二月

又聖宗伊豫守掛

小作滞出入

一下総國鎌ヶ谷村文九衛門相手同村作右衛門外松三人  
質地十作滞出入  
書面之出入質地證文に田相位及別も無之質地三難立  
間借金三程元利合金貳拾三兩三分銀七分餘三十日限文

左衛門方は可濟旨彌十郎江申渡證文申付文左衛門  
江渡置日限迄三不相濟候ハ、地主或方或朱申付毎月  
定日を極其方役以テ取遣為及日限之度々濟切候々  
濟口證文取之可差出候

○質地證文ニ名引及別無ク或ハ名主加判無キ等、不相濟  
文ハ、地主書ニ依テ全無訴權ヲ生セズトテ、此制ニ因  
シテテ多步沿革カトモ後年ニ概シテハ、少キ契付ノ書入ト見  
做シ以テ救濟ノ途ヲ開ケテ新張紙ニ載セタル弘化元巳年  
七月相讀書参照スモ、長文トモ故今也ツ省略ス

四、質地ノ契付ハ其目的物ノ傍權者ニ引渡スニ依テ効力ヲ  
生ス目的物ノ引渡ナキ質入契付ノ書入ト見做サル  
○書入ノ章参照

五、質地ノ目的ニ依テラハヤキ田畑ハ法律上質入ノ自由ヲ  
ル者ニ限ル故ニ、御朱印地寺社田畑ノ質入ハ遺法ナリ又  
字位及列ガ公ケノ帳簿面ト相遠セル質地ハ一筆以下  
ノ質地ノ遠高ナリ

〔地方凡例録〕一、御朱印地寺社田畑敷等質入又ハ遺法  
之節三事、是レ、御朱印地寺社欲シ田畑敷等寺  
之住持官ニ神主質入イラシムル状又モ、禮金を取讓渡  
ス時住持社人江戸十里四方迄取質ニ取讓請ケルものハ  
地面為相返重キ過科付ル

一、質地證文水帳ニ不合節三事、是モ質地證文字位  
及別等水帳名寄帳等ニ引合セテ、相遠キハ證文文  
言ハハシム、其質地ニ不相立倍金ニ准シ取計ハ尤加判ハ

さしこゝ村役人返科申付

一切畝歩之事、是は水帳名寄帳之面綴紅、是及歩と一筆、  
記有田地を五畝歩り三畝歩地主方、残しを余り地面之致  
質入を切畝歩と唱へ而法度たり、若流地、成るる即境  
不分の水帳之面畝歩筆數路相遠末、出入之基、付残  
地同答之仰利禁若若犯、該地同様之仰仕置たり、残地  
以下、  
詳ナク

評定所張紙

天保元五年三月

質地作徳出入之儀、付相談書

沸相談書

壬午名作徳守  
山村信濃守

質地作徳出入評出候節吟味之上、質地證文之字位高

及別等認無之證文、勿論水帳、不引合證文、加印此候  
名主之過料可申付評定候處、作徳計濟方相談候節、小  
作證文、之上位及別等水帳、不引合又、位及別等證無  
之方、加印之名主答申付候も有之、以、不答も有之、區々、  
付以來作徳計相談候節も、質地證文、小作證文、共相糺  
字位及別水帳、不引合或認無之分、共加判之名主評定  
之通、過料之上作徳滞、借金之利足、准シ濟方申付質地  
元金、濟方之不及沙汰候得共、右解不埒證文、付相對之  
上證文、可仕直可申渡と存候儀、之及相相談候以上  
右丑三月四日一座評議極下、詳ナリ

六質取主、特定ノ期間内質地ノ收益權ヲ有ス收益ノ方法  
ハ質取主ノ自由ナリ然レ最モ普通ニ行ハレタル者ハ直

小作又ハ別小作ノ二種ナリ此場合ニ於ケル小作権ノ該  
 定ハ必ズ小作證文ヲ以テ証明スルコトヲ要ス實地ノ小  
 作ガ直小作ナル場合ニ於テ小作證文又ハ之レニ准ズベ  
 キ文書ガ存セザルトキハ實入契約ノ書入ト見做サル小  
 作ガ別小作ナル場合ニ於テ小作ノ存在ガ明白ナルトキ  
 ハ小作證文ノ存セザルコトハ實入契約ノ効力ヲ妨ケズ  
 トモ其小作ハ許權ヲ生セズ

○直小作トハ實入主ガ實地ヲ小作スル場合ニ於テ別小作トシテ  
 小作ノ場合ニ於テ小作ノ音ナラ參照スル

〔地方大成録〕

文政十一年

實地小作之儀ニ付伺○全文ハ後ニ引クケテ其  
 一節ヲ詳釋ス  
 〔前略〕其上下作ハ實取主之了簡次第之儀相對ニ格別

元地主等小作致シ来候共是以素ヨリ實地ニ差出候程  
 之儀畢竟年季の請戻相成華候上ハ流地可相成ニ差  
 出候事而實地必直小作而已ニ可相限譯ニ無之最  
 初ヨリ實取主手作又ハ前小作等ニ渡置深地相成候ハ  
 其節最早地引ニ可相離理合之事ニ付○實地ハ  
 小作ニ限ズ手作モナラ  
 自由アリト知ル

〔決定書〕下

〔判〕實地小作取捌之事

實保ニ付極  
 一十作證文無之候共別小作無相違

本證文定法ニ通候ハ

徑前ニ例

但直小作ニテ證文無之方書入准本證文宜候共實地  
 之法ニ裁許不申付事

實地元全封裁許申付小  
 作障不申付尤地相成  
 今ノ地主ニ可為引渡

従前之儀

一、少作證文無之候共質地證文少作

質地金少作金共  
可申付

二、儀書加有之候

七、質取主ノ質地ノ収益權ノ有之候ニ本儀權ノ利ヲ收ムルコトヲ得之有利ノ質入契ノ無授保ノ質金ト見做ス

科件類典

借金銀裁許申合之事

享保十四年四月

(前略)

一家質金、質地金其外質物出入、只今迄申付來候間、正月以前之方、彌只存迄、通可申付事

但右二條、高利相見候、可取吟味質地之儀、少作之事、付利方不及沙汰

(下略)

地方公裁録

享保五巳年四月六日

質地出入取計方評儀之事

(前略)

但質地證文不束ニ而利足定等有之歟又、金主に地所不到渡少作證文無之直ニ作致し候歟書入金同様之趣意ニ相違候、質地ニ雜立間通例之儀、金ニ准し吟味詰可被相伺云云(下略)

右者本文但書共寛政五巳年四月廿日肥前守臣於内容合評

議極

勘要記

貞田豊後守より質地出入之儀、付同合

(前略)

一内證・利付分屋ニ而證文請取尤書替遣置表面ノ質  
地證文ニ考致込濟候節質地證文之方を以流地ニ申  
掛候出入

右之類年々利分請取候欽又り月々金子請取候欽  
於此白ノ質地ニ難取討儀と存候

右者... (中略) ...此段奉伺候以上

三月  
下ケ札

正昭利足等遣候分ノ證文ノ質地と有之候共取付  
方質地之定法ニ違ひ候事故都而滞金之濟方申  
付流地ニ不申付筋ニ候右之趣ニ而御同右之趣意  
一相分り可申儀ニ付箇條下ケ札ニ不及候以上  
麦五月

八、質取主り質地ノ収益權有入故ニ質地ニ賦課<sup>セ</sup>ル<sup>テ</sup>キ  
總テノ公ケ、質權ヲ辦納セザン可ラ不<sup>レ</sup>當事者又村ノ意  
思表手ノ具効力ヲ生セズ故ニ其質權ノ全部ヲ質入主ガ  
質權スルコトヲ約スル賴納又ハ其一部ヲ質權スル半賴  
納若シテハ質地ノ一部ヲ質入主直ニ作シ全部ノ質權ヲ  
主柳<sup>フ</sup>ノキ<sup>キ</sup>殘地ニ他<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>數似<sup>ル</sup>契<sup>約</sup>ノ定法ナク

(決定書) 下  
延享文手札  
一質地之辛賣計金主より差出  
箱役の地主相勤候證文

辛季三内ニ候ハ定法ニ應  
證文仕直<sup>マ</sup>セ  
質取主  
延料  
加判之名主  
遺料

但年奉明候之地面可為諸度年奉明三月迄候之  
一箇入之地面を半分直作のし置地之音

不候年奉諸役共地主より相納候證文  
右同形

〔地方凡例録〕一穀納之事 田一畝納之米 田畑堅入上轉  
通削之管金より金者餘計之借立代り田畑を金子子作の  
し年奉諸役の地主を勤を納納のし金主より作り取改  
事故貞享四年分の停止之成若及出入之し郎の地主を  
逆料取取之もの地面取上逆料加削之各生役取取  
取人此りの由定法より

一半納納とも田畑堅入之郎金方より借請地を直  
作のし年奉金主の納ノ諸役の地主を勤之中納納  
と唱替納同形而創禁なり居及出入之し郎の地主此り  
金主并判之知生逆料年奉の凡の定法通證文仕金  
直之七年奉後凡の地面清度させ七年奉の昨々二月月の許  
出まの右の通り二月迄取らぬ派地二十付ル諸度をも派地  
三成をも右の通り

一残地之事、是も雖に餘地之地面より所歩鬘屋通例の  
餘計借請の内五反歩も地主方に残置直作のしし及  
及歩一合七斗作のしし整入高歩所歩の年奉諸役地  
主を勤或は所歩有之金者借請金主は五反歩  
有歩五反歩の地主方に残置路作所歩の年奉諸  
役地主を勤何れも金主五反歩路作取付半奉納  
同歩のし仕金なり

〔政要問答三祝録〕  
集

安永八三年

質地之儀ニ付簡書

一質ニ取候もの作取にて質置主年貢諸役の勤候を  
頼納と唱湯法云候

一質入之地面を半分直十作路し質地之言少候年貢諸役  
共地主より納候を錢地と唱湯法云候

右二條及露敷候得て双方が判共商賣有之事  
一質地年貢丁年道所出候を、湯取上無之事

右二條と大小之百埋等々相辨候様村役人より為申す  
以来年々名至定にて為讀字下申もの也

〔地方公裁録〕

天明二年三月

質地出入取割方公事方吟味江坂孫三郎江問合并

按抄

(上略)

不埒詮文之事

一不埒之質地之地取上詮文が判致し候村役人等も相  
應之答申付候由右者以何之質地を右三箇申付候儀  
湯取候哉

右者頼納之質地并永代賣の兩様之地取上質地詮  
文が印之村役人五人組等も相應之答申付且半頼納  
之不埒詮文之地取上候節には無之保金に准し可取  
計事

半頼納以下不埒詮文之質地之事

一半頼納以下不埒詮文之質地保金に准し取付方之質地之  
金を三十日限にも濟方申付右日限に不埒候一切金申付

候儀も有之候哉

右、質地金を借金に准し直、濟方申付候勤、無之地  
面、地主方、<sup>正</sup>為返質地證文、取上質地金、借金證文、  
為直、可申候其上、而貸金證文、以金、<sup>正</sup>許出候、  
通例、借金出入、<sup>正</sup>通、可取計事、

半頼納之質地之事

一半頼納と申、如何之質地之候哉

右、質地ニ相渡候地、<sup>正</sup>年貢、地主より相納質地ニ取  
候もの方、<sup>正</sup>諸役計勤候勤并質地ニ渡候地、<sup>正</sup>内  
年貢諸役勤候程地主方、<sup>正</sup>残置同人方、<sup>正</sup>年貢諸役  
を勤残地を先方、<sup>正</sup>計取作徳、<sup>正</sup>候質地此兩様  
を半頼納と申候事、

不埒證文、以質地之地、<sup>正</sup>諸戻之儀、質取主不承知

之節之事

一質地年季、<sup>正</sup>拾、<sup>正</sup>年置候分、諸戻候儀、質取候もの不  
承知、付地主新出候款、<sup>正</sup>假令不埒之質地、<sup>正</sup>候共、年季  
明拾、<sup>正</sup>年置候儀、<sup>正</sup>付取上、<sup>正</sup>不申勤、<sup>正</sup>候哉

右、質地年季、<sup>正</sup>置、<sup>正</sup>出候共、證文、<sup>正</sup>且、<sup>正</sup>不埒之證文  
ニ候、<sup>正</sup>取上、<sup>正</sup>借金、<sup>正</sup>准し、<sup>正</sup>前條之通、<sup>正</sup>可取計候

右者、天、<sup>正</sup>二、<sup>正</sup>宣、<sup>正</sup>年三月、<sup>正</sup>公事方、<sup>正</sup>吟味、<sup>正</sup>役江、<sup>正</sup>坂孫三郎、<sup>正</sup>同合  
候處、<sup>正</sup>前書之通、<sup>正</sup>挨拶、<sup>正</sup>右、<sup>正</sup>杉、<sup>正</sup>困、<sup>正</sup>飯、<sup>正</sup>渡、<sup>正</sup>守、<sup>正</sup>公事方、<sup>正</sup>御勤、<sup>正</sup>之  
奉行、<sup>正</sup>之前、<sup>正</sup>質地之儀、<sup>正</sup>悉、<sup>正</sup>世、<sup>正</sup>福、<sup>正</sup>有、<sup>正</sup>之、<sup>正</sup>右、<sup>正</sup>之、<sup>正</sup>通、<sup>正</sup>相、<sup>正</sup>極、<sup>正</sup>候、<sup>正</sup>由、<sup>正</sup>其、  
節、<sup>正</sup>孫三郎、<sup>正</sup>申、<sup>正</sup>候、<sup>正</sup>事、

九、<sup>正</sup>私、<sup>正</sup>代、<sup>正</sup>替、<sup>正</sup>買、<sup>正</sup>ノ、<sup>正</sup>目、<sup>正</sup>的、<sup>正</sup>ヲ、<sup>正</sup>以、<sup>正</sup>テ、<sup>正</sup>ス、<sup>正</sup>ル、<sup>正</sup>虚、<sup>正</sup>偽、<sup>正</sup>ノ、<sup>正</sup>質、<sup>正</sup>入、<sup>正</sup>ノ、<sup>正</sup>違、<sup>正</sup>法、<sup>正</sup>ナ、<sup>正</sup>リ、<sup>正</sup>故、<sup>正</sup>ニ、  
頼納及、<sup>正</sup>借、<sup>正</sup>金、<sup>正</sup>質、<sup>正</sup>入、<sup>正</sup>ノ、<sup>正</sup>其、<sup>正</sup>契、<sup>正</sup>約、<sup>正</sup>全、<sup>正</sup>部、<sup>正</sup>カ、<sup>正</sup>許、<sup>正</sup>権、<sup>正</sup>ヲ、<sup>正</sup>生、<sup>正</sup>セ、<sup>正</sup>ヤ、<sup>正</sup>ル、<sup>正</sup>ノ、<sup>正</sup>ト

たゞ不図俾るに利四利三處とラレ

○頼納之款より前條参照

〔決定書〕下

（凡九倍金并白紙手形之而金銀貸借のたし候もの御仕立

之事）

充任之手極

一倍金并白紙手形之而質地借金等取べり仕候もの不埒  
付濟方之不及は、雙方并澄人共過料可申付事

但金主借主過料員數之儀、例に不拘身上三應し重  
可申付事

〔地方凡例録〕一倍金質地之事 田地永代賣止付内々

倍金質と名付、壁の控兩相當之田相金主相談之上質地  
澄文之と質金質拾五、三控兩共直段と上々一倍又二

増

倍にも認め手取ハ控兩取之田地を金主に相渡す事  
取ても難請返様とし、若出入等之成る時質地と見ゆ

る様、賣主買主相談を謀計し、永代賣渡儀内  
有る由是に買主之方、重し質金手形より可買取

旨申事と見へり、是又永代賣同を敷敷由御存  
り様之澄文大方名主組頭加印も不致矣所出るも

無取上之相濟り、凡々も、田相質入直段相應も  
有る、或は付不相應之金高、乃ら、邊吟味彌而法度

之倍金、決まらぬ、出入端方之不及は、控双方共重し過  
料中付、賣主共過料員數、例に拘らず身代三應し

重し付、若名主加判有る、澄人印形等有る、澄  
人名主共過料中付るなり

十、質置主が主たる債務ノ辨済ヲナシテ質地ノ占有ノ回復  
スルヲ請戻ト云フ質置主ノ適當ノ時期及期間内質地  
ノ請戻ヲナシ得ベシ質入契約ニ三年季ヲ定メリん場合ニ  
一請戻文言ノ有無ニ其効力ニ影響スル所ナシト定ムルニ無  
一年季ノ契約ニ在テハ金子有合次ノ請戻スベキコトヲ特  
約スルニアラザレバ質入契約ニ成立セズ

十一、請戻権發生ノ時期及行使ノ期間ニ質入契約ニ三年季ヲ  
定メタル場合ト名トニ依リ又流地ノ特約カ存スルト否  
トニ依テ異ナル年季ヲ定ムル契約ニマワテテ請戻権ノ  
年季經過ト同クニ發生シ流地ノ特約カ附随セル場合ニ  
一年季經過後ニヶ月間存続スル流地特約カ存セザリし場  
合ニ一年季經過後十ヶ月間存続ス無年季ノ契約ニアラ

テ請戻権ノ契約成立ト同時ニ發生シ契約成立ノ時ヨ  
リ十ヶ月間存続ス

十二、質取主ノ質置主が適當ノ期間内請戻権ヲ行使セザリし  
場合又ハ請戻ノ判決ガアリシ後特約ノ期間ニ現貨ノ請  
戻ヲイテザリし場合ニ於テハ主たる債務ノ辨済ニ代  
テ質地ノ竹有権ヲ取得スベシヤシ流地ト云フ流地ノ方  
法ニ當事者が質入契約ニ於テ流地ノ特約ヲナシタルト  
キハ別ニ何等ノ形式ヲ要セズト定ムルニ其特約カ存セザリ  
し場合ニハ流地權文ヲ作成シ質入權文ト交授スルコト  
ヲ要ス又何レノ場合ニ花ヲモ當事者トモハ動産ノ名義  
書替ヲ申請スルヲ要ス

十三、質置主が年季内主たる債務ノ一部ヲ辨済シ年季經過後



〔満室書〕下

(廿二) 質地十作取捌之事

之文二年極

一年季の拾と年照候質地

流地

但流地之文言無之證文、一年季の拾と年内許出

僅、濟方申付

徑前之通  
一年季内之質地

一年季の流地候様、可申付

一年季の限無之金子有合濟方可積戻

質入二年より拾と年迄候、流地

證文

一拾と年次上一年季質地

無取上

賣佛元年極

一年季の不請戻候、可改流地之由證文

一年季の候、期月、二十月迄許出候、流地

但一年季の不請戻候、永之支配又子之佛、迄攝無之

旨且又所證文と以可改戻候、可改右田杯之文、流

地之證文、准可申付事

地金走、流地

一質地之金濟方申付候上、區金佛候、

但直小作佛候、可為棄捐事

一質地之金一年季之内内海、此し一年季の

内濟之金子、地主に相返し流地、

勤要記

真田豊後守より質地出入之儀、付向合

(不照)

一、田畑質入仕金子致借付候節、一年季を年限有質地金

主乃口正相度其打役元萬名寄帳主金名前之改高入  
年限中右入上金主乃正請取手奉明之而元金不致  
返海候節流地相成可申候此儀質入仕候節證  
文手奉明相濟不申候節此證文之改流地可改有  
記有之候共彌流地之對候節書替證文為差出  
最初之證文引替可申節可有之哉

一萬一最初之證文也從之而流地成居後之出入等申之罷  
成候而外之疑敷儀無之分之儀無之儀之而證候  
哉

一又、最初之證文取置候計之而流地之證候故後之出入  
等申祭候事之付金主不念之節可有之哉

(中略)

右名、……、此段奉伺候以上

三月

下之札

書田田相替入之字位及列水帳之相違不改標證文之  
根村役人加判之以拾之奉以下之奉奉而金主正相  
渡云奉奉中一覽取方上、奉奉相納奉奉明之節  
不請度流地之對該相濟候得、流地證文之最初  
三名寄、改候標儀、而奉奉中金主名為改候、  
候節、之無之候奉奉明不請度候之流地、可  
改有之文言品神之證文、有之候得、別改流地  
證文、之不及其證文之、名為改候、も不若村役  
人奉元之帳面質取主之名、之相成、奉奉九奉之

其若より相納候得ッ出入ニ相成候而モ紛敷筋ハ  
無之候………在之趣ニ而清同合之趣意ハ  
相分リ可申候付尚條下ケ札ニ名及候以上、  
亥五月

質池流地之儀ニ付同右

質池拾々年に限り申候哉

下ケ札

濟書面拾々年以上之年季ニ而質池取引ノ不致定法  
ニ候

一質池拾々年年季濟候後ニ年月清候迄不請返流地ニ  
相成候敗申立候ツ其供流地ニ申渡可成勤ニ候

哉

下ケ札

濟書面年年季候不受戻候ノ流地ニ清海由又ハ永々手配  
可成リト之文言陸文ハ有之候ツ年月迄ノ候迄不  
受戻候上ニ流地ニ清申付可成候

一三々年年五々年年七々年年季之質池之儀終三々年年<sup>迄</sup>年月

不受戻流地ニ相成候敗申立候ツ其供流地ニ申渡

可成候哉又ハ拾々年年ニ限り右舞燈年年季之儀ニ年年

流地ニ相成敗申立候共取戻國以可申付候ニ候

哉

下ケ札

濟書面拾々年年以下之質池ニ相成筋ニ無之間年年  
季以流地ニ可成旨之陸文ニ候ツ年年季以不請戻  
候上ノ流地ニ清申付可成格別不埒之儀ニ無之質池  
正國以可申付筋ニ無而陸候

一取捨候質地控文之候より取用不申取戻關所仕候  
節之候哉

下ケ礼

御書面不増之控文之候より質地之雜立比御書入控  
文之付傍金之准し候取計之可成事之而密易之願  
以之可申節之無之候荒端。前付札之類之候  
得共質地に之品之宜有之控文等も得と一晚  
不路候而之兼之雜及治定之挨拶及出入等候而  
其始末之等申付方も有之候之付其事之臨之委  
細之始末不承候而雜取極存候以上

申三月

善濃部十右衛門

〔諸事箇〕

嘉永三四年七月

質地之作出令之候之付評定以留後江向合之事

(前略)

一每年之候之ニケ年三ケ年之定之而も期月相立候上ニケ  
月迄候之裁許之節之流地ニ申付可成哉  
一田畑屋敷地と一束之質地ニ差入有之時定之期月相立  
不請戻候之一同流地ニ為相立可成哉  
右之通及御向合候

西七月

下ケ礼

(上略) 其餘或々條目ニケ條目之候之流地之文之控文候  
より何れも御書面之類を以夫々流地ニ被仰付振候候  
無御座之段御挨拶仕候以上  
西七月

〔刑錢須知〕 質地毛刈取集

一質地儲方申付し得共日限ニ不相濟地面金主方に引渡小ニ付其年作り並小作毛共ニ引渡小等ニ所産小哉又者作毛を儲主方江刈取地面計引渡小節ニ所産小哉過半地主刈取小申有之小此類必何様申付小節ニ所産小哉之事

所仰  
地面計可渡事

(甲略)

右字係十一年八月廿五日付六郎左衛門殿ニ同上相極ニ  
○前逆諸文ニ於テ見テ久カク流地ニ墾入ノ由相其者リ以テ新濟ニ代ヘ去ルノ制ナリシガ天保十三年及ニ改革ノ以テ方極ニ改テ田畑ノ賣却金銀ノ位ニ新濟ニ代ヘシル者トナリ其此以改革ガ果シテ實カクテクニ存存ニ詳ナク

〔天保節改革要報〕

宣平月朔日(天保十三年)  
越前守殿進(江尊)  
卯五月廿五日  
越前守殿下下

全銀出入裁許改革之儀取柄申上候書付

(甲略)

島居甲斐守

一借主以持之田相家産數等家質之地ニ入並候ノ證文吟味之上出付以テ入並候ニ無相透候ツ質入之由畑亦數ニ葉柵質取主ニ為相渡現金之内以テ許認人ニ可為相渡過全無之候ノ質取主ニ相對立方ニ可申付候質

地権文ニ由り可役人加判無ク分テ素より借金ニ准し取扱  
候向事候得と相亂金高ニ應し割金候而身代限為  
渡可申候質地ニ入無之候とも先ハ田相高ハ不為相渡  
金拂代金と以為相濟候様可仕候、

(下略)

**出**質取主ノ質地ノ轉質ヲナスコトヲ得ズ若シ質屋主カ轉  
質ニ同意ヲ表シ詮文ニ加判シタル場合ニ於テハ轉質、  
依テ擔保コレタル主タル債務ノ質取主轉質ノ責ニ任ズ  
バン但シ其債務ノ金高ガ亦一ノ質入ニ依テ擔保コレタ  
ル債務ノ金高ヲ超過スルトキハ其超過ノ部分ニ限り轉  
質ノ義務ノ轉質者ニアリ

〔地方凡例録〕一又質之事 是モ質取タル田地を取主

ト又外に質ニ是といふ是又勿禁テ其地主元地主凡  
知ニ而加印於有之元地主に濟方ヲ付ル又質地ノ節  
増金借揚ルハ其分モ又質屋ニシテものは濟方ヲ付ル  
〔濟方書〕下

冊一質地ノ作取割之事

從前之例 一又質元地主加判有之詮文

元地主に濟方書  
向之通可申付

重保元年極

但又質之節増金借揚候キ其分、又質屋候ものニ  
濟方可申付事

**五**質屋主ノ一度質入工供ニタレ田相ヲ以テ他ノ債務ヲ擔  
保スル為メ再々質入ノ目的トナスコトヲ得ル

〔地方凡例録〕一、二重質之事、 是モ田相を兩人に質入

る事、割替也其品三寄地主谷ノ付ル地内先ニ質取  
るものにはあらず

〔兩重書〕下

〔四七〕二重質二重書入三重賣渡仕屋之事  
質入五  
一田畑屋敷二重に質入たし候もの  
中込放  
名主  
輕中込放  
加判人  
氏 拂

質保二年  
比年之半極

但二重書入も因勢田畑屋敷建家等之初之金主に  
相渡後之金主は一家財取上可相渡尤名主加判人  
馴合禮金取候中込放後之金主存貯質  
地書入等禮文取候におゐて江戸控里四方中込放

三、質

質地之化ヲ擔保カレタル債務ノ履行アリし場合ニ  
以裁判所ノ金高ノ多少ニ應シテ三十日以上十三ヶ月ノ  
期限ヲ定メテ其履行ヲ命ジ其期限内履行滿チキトキハ  
質地ヲ以テ流地トナスメレノ質地ニ依リ擔保セハ債務ノ質地金  
〔約定書〕下

〔四三〕質地滞未全日限定

- 一 五兩以下 三十日限
- 一 五兩以上拾兩迄 六十日限
- 一 五石以上拾石迄 百日限
- 一 拾兩以上五拾兩迄 或百五十日限
- 一 拾石以上五拾石迄
- 一 五拾兩以上百兩迄
- 一 五拾石以上百石迄



二家賃ノ質取主ニ生クル債務ノ辨濟カ度クル返取入ノ目  
的物ヲ占有シ且収益スルコトヲ得ニシ又債務不履カ  
場合ニ於テ辨濟ニ代ヘテ其所有權ヲ取得スル

三家賃ノ契約ニ依テ成立ス其目的物ハ質入ノ自由ナル者  
ニ限ル又其契約ノ種類ノ形式ニ依ルコトヲ要件リスル  
形式ハ天保十三年以前ノ制ト以後ノ制ト同一ナラズト  
ス其旨主旨トスルハ家賃ノ質取主ニ家賃契約ト同時  
ニ其家賃ノ質借人トナルコトニアリ

四天保十三年前ノ制ニアツテハ質取主ハ先ヅ其家賃ノ  
永代賃取主ト家賃諸狀ヲ作成シテ之ヲ質取主ニ交付  
シ猶本借状ヲ名主ニ寄託スルコトヲ以テ家賃成立ノ  
要件トナセリ

五家守トハ貸家ノ管理人ニシテ猶現時ノ差配人ノ如シ家  
守諸狀トハ家守タルベキ者ト保証人トカ連署シテ家主  
ニ交付スルキ様文ナリ即チ家賃取入者ハ質入ト同時  
ニ名義上其家賃取入ノ家守タラカハ可ニ然レ其際ニ  
テハ質借人ノ地位ニアリ

六此等ノ形式ハ弊害ノ生ルコト多キヲ以テ天保十三年  
幕府ノ命ヲ被シ永代賃取主ヲ作成スルコト及ビ本借状  
狀ノ寄託名主ニ寄託スルコトヲ改メ通常ノ質入様文  
ヲ作成シテ之ニ質取主ガ質借人トシテ質取主ニ支拂  
フノキ代店賃箱賃等他ノ特約ヲ附記セシメ之ヲ本  
借状ト号シ質取主ニ交付セシメ質取主ニ之ニ対シ  
本借状ノ預借書ヲ作成シテ質取主ニ交付スルコトヲ以

丁家管成王ノ要事下十七ノ

諸事留

文政三未年六月

家管金出入取調方立儀付申上候書付

都而家管金取引立儀別紙立趣ニ米代旁渡陸文江  
家主五人組名王一同連印致し并家守諸状之添相  
渡元沽着状ハ其所内名王方正預り置金子代候候  
所方一統前々之仕外ニ有之右家管金并宿儀算常  
取出候節追々濟方利解申上候上内濟相整不  
申候得者別紙之趣ニ口書取調差上渡取許被仰  
付候儀ニ御座候付取御尋ニ付申上候已上

二月

主人姓名略之

家管陸文案伺

米代旁陸申家取敷之事

管味方

何町何町何側何角ノ何野自表京間何間裏幅何間裏行  
所並何間有之我等所持之家取敷付取代金何両ニ貴  
取江米代旁候別紙並申上但三左右之金子愼ニ出取  
申上處宜也也此家屋敷ニ付陸御公儀様御座候無御座  
候尤御領地拜借地ニ而無之其上御諸頁手出入尋  
出候一切無御座候諸親敷方及申上何方ノ御座  
乱申者無御座候若横合ノ御座候申上者御座候ハ  
加判之者若何方近ノ御座候ハ交持候ハ曼殿江少由  
御座候若懸申上間敷候為後日米代旁陸若状仍  
如件

年月日

家守

誰印

五八

誰印

月

誰印

名

誰印

家守請状之事

一何所何下月何例何南より何軒目表<sup>同</sup>何同惠福何同東  
 行所並何十間有之貴殿江御引受之家屋敷此誰と  
 申有恒成者之御座付我等家守請之罷之家守  
 為政申處実正之御座候此家屋敷ニ付諸請員の  
 為政申間敷候地代店賃之儀、所役諸人用并家  
 守給金家作普請其外入用共誰方。家守より引受  
 仕辨仕せし月金何亦銀何多宛毎月晦日ニ為相

後国月分共無違景殿江為相後可申候事一敷鏡  
 等之候有之候共右極之通り毎月無違為相後可申  
 候尤未ハ何年何月迄家守為政候若相極候間期  
 月ニ至り候得右家屋敷貴殿江為引後可申候勿  
 論期月不末候共地代店賃之月ニ而も相違候  
 家守御取放可成候何特成共家屋敷貴殿江為  
 引後可申候右極過候而も家守被附至候此家  
 守請状之儀何々年々我等家守請之儀之候儀相  
 違無御座候

一清公儀様御座候之儀左切相守諸達簡事無油  
 抄店三者江為申間所役大切相勤可申候店衆店受  
 状寺手移入金為取金不見届もの為差是申間敷

候

一宗首之儀ハ代々何宗而寺ハ何所何寺且那仁紛ル無所  
座候若約敷宗門杯と申もの所座候ク何方迄も罷  
出右之通相違無ク儀念度申扱可任候  
右三通家守禮ニ罷立候上右在外如何標之六ヶ敷  
出入等致出来候共我等引受者限ハ少も満苦芳勉  
ケ申官製候為後日家守禮收仍如件

市号ノ月日

家守

誰印

請入組

誰印

日

誰印

日

誰印

何ニ誰殿

○右ニ書式ニ款テリ節末ニ掲ケルん实例ニ参照スル

〔摘要永久録〕

天保十三寅年九月

家屋敷家質入改正之儀ニ付可觸

(云而略)

一家屋敷家質入候節借主并五人組金主一同其支  
配名主宅ニ而立合之上金子相渡家質控文之儀ハ沽券  
状同様永代券返三文面ニ而金高相渡借主并五人組  
共主連印致家守禮状ハ宿賃定期月等相渡借  
主五人組連印以金主ニ相渡元沽券状ハ印封ニ而右  
主方ハ預ケ置候徑来之仕法ニ有之由ニ處先年より  
取リ置候沽券状を以不正ニ取計口知し重々御仁

置ニ相成候ものも不<sub>レ</sub>少候に未<sub>レ</sub>家質取引<sub>レ</sub>成候之節  
以<sub>レ</sub>活券状名主方<sub>ニ</sub>預<sub>リ</sub>立候候<sub>ニ</sub>相止<sub>テ</sub>家質<sub>ニ</sub>預<sub>テ</sub>文  
全<sub>ク</sub>高<sub>ク</sub>宿<sub>ル</sub>候<sub>ニ</sub>割合<sub>ニ</sub>候<sub>ニ</sub>相<sub>ニ</sub>認<sub>ル</sub>傷<sub>ニ</sub>主<sub>ト</sub>人<sub>ト</sub>但<sub>レ</sub>名<sub>主</sub>一<sub>ニ</sub>同<sub>ク</sub>改  
連<sub>テ</sub>向<sub>テ</sub>活<sub>テ</sub>券<sub>ニ</sub>状<sub>ニ</sub>相<sub>ニ</sub>係<sub>ル</sub>金<sub>主</sub>江<sub>ニ</sub>相<sub>ニ</sub>後<sub>ニ</sub>斬<sub>テ</sub>紛<sub>テ</sub>敷<sub>テ</sub>候<sub>ニ</sub>之<sub>ニ</sub>標  
仕<sub>テ</sub>活<sub>テ</sub>相<sub>ニ</sub>改<sub>テ</sub>取<sub>テ</sub>引<sub>テ</sub>可<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>候<sub>ニ</sub>若<sub>レ</sub>此<sub>上</sub>紛<sub>テ</sub>敷<sub>テ</sub>候<sub>ニ</sub>於<sub>テ</sub>相<sub>ニ</sub>守<sub>テ</sub>者<sub>ト</sub>吟  
味<sub>ニ</sub>上<sub>ニ</sub>急<sub>ニ</sub>交<sub>テ</sub>答<sub>テ</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>テ</sub>付<sub>レ</sub>候<sub>ニ</sub>旨<sub>所</sub>中<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>觸<sub>ル</sub>知<sub>ル</sub>者<sub>也</sub>

諸事留

天保三庚午十月三日

家質<sub>ニ</sub>預<sub>テ</sub>文<sub>ニ</sub>改<sub>テ</sub>印<sub>ニ</sub>付<sub>テ</sub>所<sub>方</sub>有<sub>リ</sub>以<sub>テ</sub>市中<sub>ニ</sub>名<sub>主</sub>共<sub>ニ</sub>江<sub>ニ</sub>申<sub>テ</sub>後

世活掛

名主共

右<sub>ニ</sub>前<sub>ニ</sub>々<sub>ニ</sub>家<sub>質</sub>者<sub>ト</sub>入<sub>テ</sub>候<sub>ニ</sub>節<sub>ニ</sub>家<sub>質</sub>預<sub>テ</sub>文<sub>ニ</sub>言<sub>ニ</sub>と<sub>本</sub>活<sub>テ</sub>券<sub>ニ</sub>状<sub>ニ</sub>  
文<sub>ニ</sub>言<sub>ニ</sub>と<sub>同</sub>様<sub>ニ</sub>之<sub>ニ</sub>振<sub>合</sub>而<sub>テ</sub>家<sub>質</sub>金<sub>主</sub>江<sub>ニ</sub>渡<sub>シ</sub>地<sub>主</sub>立<sub>テ</sub>家<sub>守</sub>

二封<sub>一</sub>別<sub>ニ</sub>封<sub>ニ</sub>二<sub>一</sub>誘<sub>テ</sub>候<sub>ニ</sub>差<sub>出</sub>一<sub>ニ</sub>通<sub>リ</sub>三<sub>ニ</sub>高<sub>ク</sub>本<sub>ニ</sub>活<sub>テ</sub>券<sub>ニ</sub>状<sub>ニ</sub>と<sub>見</sub>  
紛<sub>レ</sub>ル<sub>候</sub>書<sub>振</sub>而<sub>テ</sub>本<sub>ニ</sub>活<sub>テ</sub>券<sub>ニ</sub>状<sub>ニ</sub>名<sub>主</sub>方<sub>江</sub>預<sub>リ</sub>候<sub>仕</sub>方<sub>ニ</sub>有<sub>リ</sub>  
紛<sub>テ</sub>敷<sub>テ</sub>相<sub>守</sub>候<sub>留</sub>今<sub>般</sub>仕<sub>活</sub>相<sub>改</sub>活<sub>券</sub>状<sub>金</sub>主<sub>江</sub>相<sub>預</sub>  
聊<sub>テ</sub>紛<sub>テ</sub>敷<sub>テ</sub>候<sub>等</sub>無<sub>ク</sub>様<sub>可</sub>以<sub>テ</sub>旨<sub>相</sub>認<sub>候</sub>付<sub>以</sub>束<sub>右</sub>活<sub>券</sub>  
文<sub>面</sub>認<sub>振</sub>之<sub>候</sub>向<sub>出</sub>付<sub>荷</sub>取<sub>引</sub>之上<sub>別</sub>封<sub>三</sub>通<sub>リ</sub>雛<sub>形</sub>  
相<sub>後</sub>候<sub>向</sub>以<sub>束</sub>一<sub>統</sub>右<sub>之</sub>振<sub>合</sub>相<sub>心</sub>得<sub>可</sub>申<sub>候</sub>  
一<sub>活</sub>券<sub>状</sub>金<sub>主</sub>江<sub>相</sub>預<sub>リ</sub>候<sub>節</sub>立<sub>合</sub>候<sub>上</sub>印<sub>封</sub>此<sub>家</sub>  
質<sub>預</sub>文<sub>と</sub>結<sub>ニ</sub>相<sub>預</sub>リ<sub>尤</sub>地<sub>主</sub>方<sub>江</sub>金<sub>主</sub>より<sub>活</sub>券<sub>状</sub>候<sub>預</sub>  
リ<sub>立</sub>候<sub>趣</sub>書<sub>付</sub>取<sub>候</sub>候<sub>申</sub>立<sub>候</sub>通<sub>リ</sub>可<sub>以</sub>候<sub>候</sub>  
但<sub>レ</sub>印<sub>封</sub>之<sub>候</sub>者<sub>地</sub>所<sub>役</sub>人<sub>共</sub>調<sub>印</sub>可<sub>以</sub>候<sub>候</sub>

(中略)

右<sub>ニ</sub>通<sub>相</sub>心<sub>得</sub>無<sub>差</sub>文<sub>取</sub>引<sub>可</sub>以<sub>旨</sub>被<sub>仰</sub>活<sub>券</sub>文<sub>御</sub>難  
形<sub>活</sub>候<sub>被</sub>下<sub>維</sub>有<sub>奉</sub>畏<sub>候</sub>者<sub>存</sub>付<sub>候</sub>件

天保十三寅年十月十三日

五番  
南信馬町

名主石后門煥存  
梓

新七郎  
外一組一入宛印

家質證文之事

一何町何直何南表系何同裏中國形同何角有之証券金  
何百兩之家屋敷走之引掛為路引掛候處以夜寺殿  
考之何年何月迄之期日金ニ而何百兩之家質ニ差  
入三付則其組名主立左在之屋敷不減越ニ捨取右活  
券狀滿被申處實白也此家屋敷之儀ハ御公儀  
様拝取地持借也等ニ而無之勿論滿數預者石申

外より搦無御座候若獲金より違礼申着有之候  
ハ掛石共方ニ而急度増上之殿江少御若方相掛  
申間敷候

一地代店賃上儀ハ御公役町役并家守給分家作番請  
其外諸入用此方ニ而仕拂七ヶ月限銀何百匁死因  
月共毎月晦日限急交之殿江為相渡可申候方一  
敷候并何様之異爰有之候共期月ニ至之候ハ  
右家屋敷貴殿江為引渡可申候勿論期月不來  
候共地代店賃相滞候ハ何時成若家屋敷貴  
殿江為引渡可申候  
右三通少も違表申間敷候後日入置申家質證  
文们如件  
年号日月

雜殿

借主 誰  
密主 誰  
主人組 誰  
名五 誰

各三寸差出候雛形  
金主より地主正可差沽券状預一札案

一 沽券状預り申一札之事

一 表裏間何間

裏中 何間

裏行 何間

沽券金何百兩

右家産敷引當ニ而金何百兩申用立申候ニ付沽券状  
何通預り至申候返金ニ節無相遠相戻し可申

為後日沽券状預り一札仍如件

何町店持  
店借

年月日

誰殿

誰

○石ノ諸文ニ本沽券状ト稱ス者性質ニ未カ詳ナラズ蓋  
シ沽券状ト稱ス者ニ種アリ其一ニ賣買諸文ノ謂フイ意  
味ニ於テ本沽券状ト稱ス者ニ鎌倉或町時代以謂本券又予  
継諸文ト稱ス者ニ自巳ノ所有權ヲ証明スル爲メ買主  
カ仔存スル前所有權ノ賣買諸文ナリ兩時代ニ土地々他  
人ニ賣買スニ際シテ必ズ自己ノ賣買諸文外ニ本券  
ヲ添テ賣買主ニ交付スルコトヲ要シタリ徳ノ時代ニモ

土地字不儀廢ノ場合ニ本庄着状ニ續書ニテ後受人ニ文  
 付ス例アリト已後ノ如シ其ノ維新後ノ地着ノ類  
 シタル者ニテ所有土地ノ價格ヲ証明シタル公ケノ文書トシ  
 此ノ如ク沽券状ニ名稱ニ二義ヲ有スルカ故ト上ノ論文ニ  
 謂本庄着状ハ何レヲ指スカ判別ニ若シハ以テテ天保十  
 三年ノ所屬ニ「家質」文ニ候ハ沽券状同様永代着状  
 ニ文面ニ而テ下リ又同年ノ所屬ノ所申渡シ「家質」  
 文ニ云々ト本庄着状と同様ニ稱合ニ而テ云々ト下リニ而  
 本庄着状ト見紛化候書振ニ下リルニ依テ見レバ  
 初メ意味ニ杜ケル沽券状ト稱サルモ、果シテ然ルヤ否ヤ  
 ヲ詳シクテ疑同ハ已ニ幕府時代ニ起リテ者ト見テ  
 改要同卷三秘録ニ

寛政工申年田相各同甲央庄武助様一同合

覚

一沽券

是ニ家屋敷又主田相尋賣掛ノ論文ニ而シテ

(下略)

ナル同合ニ対シ共及シタル廻合ニ

南書面

一沽券

是ニ家屋敷敷位直段ノ論文ニ而シテ壁ノ家  
 屋敷何拾何坪ノ代金何百何十兩杯ト認所後  
 人ノ連下ニ取極證券ノ有ク尤當時賣渡  
 ノ節ニ石直段ノ程ニ不相成右沽券ノ位ニ  
 應テ賣買改ノ事ニ有ク沽券ト申シ無ク由  
 相立質流地ニ致シテ格別賣買ノ所約様ニ由テ外

トアリ此文ヨレハ沽券仕リケレニ無伴ナリ未カ何レカ當  
レリヤ知テ暫ク疑フ存ス當時空貨ノ実倒ヲ揮  
ルニ以テ本心羞状ヲ名主ニ密託セシ倒チナク一般ニ家  
質ノ隆作成スル代者後權文ヲ密託シシカレテ前  
末ノ古文書ヲ卷記セヨ

七 質相ノ質入ハ拾ヶ年以内ノ年季ト定メタル者ニ限リ有  
知トシタルモ家質ノ圖シテハ年季ノ長短ニ何等ノ制限  
ナレ

八 家質ノ質取主ハ質入ノ年季内質取主ヨリ宿賃ノ辨湯ヲ  
考クルノ權アリ以宿賃ハ質取主ノ收益權ニシテ又主タ  
ル債權ノ利子ニ當ル故ニ此以外ニアツテ本債權ノ利子  
ヲ收ムルニトテ得ズ宿賃ハ三ヶ月以上停滞シタリハキ

ハ訴ヲ提起シ得ニシ

〔科條類四〕

英任之四年三月牧野越中守右衛門左衛門守伺之内

世(四) 家質船床髪床家後妻控込取捌事

一家質屋

何ヶ年以前ニ而シ金方ニ意  
日限満方可申付

● 但月限之上滞ニ在ルテ一家質可為相違大日限之内之利  
足も濟方可申付候且年季限ハ三ヶ月迄所出候ノ  
取上可申事

濟附紙 (中略)



但書三内  
且年季限三ヶ月迄所出候ノ取上可申事  
在年季限三ヶ月迄三内ノ取上四ヶ月より取上テ  
不申事ニ候哉

極

彌其進り候へ  
 且辛未候三月内迄之内所出候へ取上可申四月  
 三月候へ取上申取事  
 此趣之文書付申事哉

但日限之上等におおて家賃可相後日限之内之  
 宿賃も諸方可申付候尤辛未之内にも宿賃滞  
 三ヶ月迄所出候へ取上可申事  
 本書  
 此箇條所附紙之趣奉取候三ヶ月之候へ家賃及滞三候  
 分辛未内三候も取上候事而往候處認置申候家賃  
 元金三候之期月を以取上候候へ無所登候候へ但書  
 認置懸紙仁奉御覽入候  
 但利足と認候者宿賃之候へ三月月々宿賃を以利金  
 三仕候

右家賃二代辛未三月廿二日向三進所下知平文極

家賃ニ依テ擔保サルタニ主クハ債務ヲ家賃金トテ家  
 賃金拜攝ノ新ナルトキハ裁断行ハ家賃高ニ應シ四月十日  
 以上十二ヶ月以下ノ期限ヲ定メテ債務ノ履行ヲ命ジ猶  
 不儀ノ場合ニハ債權者ノ家賃ノ行有權リ納付セシム  
 御定書下

元六家賃前船床敷雜床書入證文取捌之事  
 從前之例  
 一家賃金

三保五手程  
 但日限之上等におおて家賃可相後日限之内之宿賃も諸  
 方可申付候尤辛未之内にも宿賃滞三ヶ月迄所出候  
 へ取上可申事

何ヶ年以迄而も金高ニ  
 應シ日限諸方可申付

卅三兩家賃金落日限定

室保三手極

一金三十拾兩以下

四十日限

一金三十拾兩以上

二月限

一金五十拾兩以上

八月限

二金百兩

白子十日限

室保三手極

三月限

一金千兩以上

十二月限

右日限之内之宿賃金主清方不申付事

諸事御由

素永二酉辛酉月

家賃金百兩有余清方日限極取候儀之付相談之事

左衛門殿

牧野駿河守

家賃金清方申付候儀百兩止之日數而已。兩百兩有餘  
見合日限可申付上有之御定。付右三座申合も可有  
之哉。取御儀處相見不申候之儀之内。別紙月割書有  
仕候得共元清等不相分候間留後。申談評定以御記為  
取御儀處是道。右相談清無之趣。付兩御役不限。申右  
も可有之哉。貴標清役以。而相分候。御知致し度若  
御留記等も無之候。別紙月割書不相當。も相當。も  
不相見候間存。基取極。申度御同合旁。別紙相添  
御相談。御候。

酉四月

家賃金割合

一金三十拾兩以下

四十日限

- 一全三十兩ヨリ五拾兩位迄 六十日限
- 一全五十兩ヨリ百兩位迄 八十日限
- 一全百兩ヨリ百五十兩位迄 百五十日限
- 一全百五十兩ヨリ二百兩位迄 百八十日限
- 一全二百兩ヨリ二百五十兩位迄 二百日限
- 一全二百五十兩ヨリ三百兩位迄 二百廿日限
- 一全三百兩ヨリ三百五十兩位迄 二百六十日限
- 一全三百五十兩ヨリ四百兩位迄 三百日限
- 一全四百兩ヨリ四百五十兩位迄 三百六十日限
- 一全四百五十兩ヨリ五百兩位迄 四百日限
- 一全五百兩ヨリ五百五十兩位迄 四百六十日限
- 一全五百五十兩ヨリ六百兩位迄 五百日限
- 一全六百兩ヨリ六百五十兩位迄 五百六十日限
- 一全六百五十兩ヨリ七百兩位迄 六百日限
- 一全七百兩ヨリ七百五十兩位迄 六百六十日限
- 一全七百五十兩ヨリ八百兩位迄 七百日限
- 一全八百兩ヨリ八百五十兩位迄 七百六十日限
- 一全八百五十兩ヨリ九百兩位迄 八百日限
- 一全九百兩ヨリ九百五十兩位迄 八百六十日限
- 一全九百五十兩ヨリ千兩位迄 九百日限
- 一全千兩以上 十二月限

右之通候得共猶見合有之

下札

南書院家管全百兩有餘遠方申付候刻全御差越有之趣  
 拙者方にも留託有之候之付再應取御録處相決済之  
 年月并雜相分候得共兩御役以限申合と相方の和  
 必永度割合を以濟方申付候例も多相見不相當之  
 儀も無之候同右江墨河向同様取極並可申候依之別紙  
 返却及御模抄候

巫山左衛門尉

西四日

拾二重質

又質之関シテハ質地ノ場后ト同一ナリ

○左之卷考ノ為ニ而屋敷質入ニ関テ古女者ヲ採録ス但シ皆  
 天保十三年前ニ及ス尚時勢ノ為質置主ヲ永代普濟證文

ト家守諸狀トク作成シテ質取主ニ交付シ猶本庄券狀ヲ名主高  
 元ニテ法ナリト前逆ノ如シ然レニ當時ノ實例ニ於テ見レ別ニ  
 本庄券狀ノ寫托アリシ例ヲ見テ却テ小代賣取程ノ寫托アリシ  
 例トシタリ又ハ寫托ニ際シテ質取主ハ質取主連署シテ寄託  
 狀ヲ洋ヘケルニテ各主ノ何レノ所存ニ於テモ預リ狀ヲ質取主ニ  
 交付シタルカ如シ且例ニ小代賣取程文ハ家守諸狀ト名主  
 ノ寫券狀欲(小代賣取程)リ、程カキテ例ニある者ノ寄託  
 狀トナリ

第一例

永代番匠申家屋鋪之事

一 此口金ニ町南角ニ五軒目表因屋間五間八寸七步裏行板四畝  
 五尺裏幅四百貳尺八寸刻歩有之我カ所持ニ家屋敷也  
 之レ以テ交代金ニ取兩ニ小代賣取主ノ組名主立交代金子  
 残債諸取申カ所實也此ノ家屋鋪程  
 向公候様存候也ニ帝茂無而程カ尤該執款々不存申  
 向方トモ我構無之ハ若違礼ノ志口查ハツ我カ所判  
 之者學出急ニ反増取而昔方掛ノ目取カ所爲也小代  
 賣取券狀仍如件

文政十三寅年十一月十七日

家持子之助初年ニ付後見

- 名主 吉兵衛
- 五人目 清八
- 川 三石
- 日 忠兵衛
- 日 信兵衛
- 名主 清兵衛

お八重との

家守請狀之事

一 甚口金立所南角五軒目表田舎官立向六十七步裏の横四間  
五尺裏幅四間尺五寸貳分有之壹軒計揚之丸尺敷以五  
午三助後見苦無衛申者慥成者而陸以付我々家守  
請之罷立家守為政中実也此家屋鋪之付諸請員事  
為政下召敷小地代店賃之候所役法不用并家守給屋  
家作普請之外宿入用共共無方而任拂一月全老  
方銀六匁、每月晦日限国月廿壹限方は急返為相返  
可申小兼一敷棟木之候有之共右極一週月之無障  
為相返可申小尤兩年十月公来卯十一月迄家守為  
致小普相控小月右期月至小右家屋敷老殿  
為引返可申小勿滿期月亦來小共店賃老ヶ月、而

相滞小家守亦取放可成小何時成共家屋敷引返  
可申小右極通小共家守之付社置以得右家守請狀  
之以何了事成之我々家守請之罷立共相返無申陸小  
事

一 赤公儀様而高之候地借店借巨仕等迄急返為相守  
不見儀者店賃中有要且店之者其親敷在之共  
無断止宿為政中召敷小并地請狀字旨寺之初入念  
取立可申小事

一字旨之候之代之淨土第、洋の寺町心行寺且那、  
無而陸小若紛忍字門杯、中者而陸小何方也罷出  
右之廻相遠無之、不急返中披可成也

右之通家守請之罷立以上々々右之外也極之六分返出

入尋跡出来如共我著引菱堂版に聊而昔方樹し申召  
敷以爲後日家守禱状仍似件

六政十三當年十一月七日

予之助後見

家守 吉兵衛

彦人 清八

お八重との

世見

一 芝呂金之町南角に五軒目表由金五尺一寸七步裏より十四  
五尺裏幅四尺三寸刻歩有之貴殿所指之家瓦敷  
是より以て石家質三哲入金三拾兩併用祓除付在  
沽券状に通懃款り至り右金子寄寄破致し即

以書附引替左右可申以上

文政十三當年十一月十七日

右主 清左衛門 中

予之助後見

吉兵衛殿

右に通款り書差出布し以留進り皆清一前右右  
書付引替沽券状に附し可申以上

(以上東軍行記經謀主及家質謹文  
帳自文政十一  
至天保十一)

予之例

永代誓夜中家守及之誓

一 尺町西側南角に刻野目表五尺四寸半裏より南三拾五間

北而拾五間或尺五寸之家屋敷寺々也

一同續三朝目表五間四百寸表の南而拾五間或尺五寸北而拾五間或尺五寸之家屋敷寺々也

右刻々即我等の持之家屋敷寺々也金四百兩之右種別  
意主之但名主之左右金子不戦性之諸取者取上代  
費取中処実正也の家屋敷寺々也

南公儀揮指地之而無之諸執敷之及中外之遠  
礼上之無兩座外一尺何中其有之以外、我等并加  
判之名異出急取増取可中其為後日小代費等仍

如件

天保六年七月廿二日

石家屋敷

意主 久也印

主但 文右印

目 彦兵衛

月 清右衛門

日 庄藏

台主 淳太郎

お良との

後見

藤太郎殿

右家屋敷の家屋敷之入甚大牛門の家持良後見持合印  
方々金四百兩路儀用外相違無兩座病親敷之及中  
外之遠礼中者無兩座外尤右家屋敷不依何事引高  
々百敷儀并上家苗入箱貸先納金折家敷之似客印  
候仕有表以依之治差状是通我等共封印仕印取

申置以故為後日仍如件  
天保六年七月廿二日

物十郎町家主  
家廣  
入主 久五郎  
靈岸嶋川口町  
家主  
敬教  
主人 全次郎

右久五郎所持之字為可及家廣之取之全四右兩年  
其之初足之而貸附之相違無由應小尤我等共以未  
名平住而等在改小即七子連而居下中之為後日仍  
如件  
未七月廿二日

甚九郎町家持  
家廣  
一屋主  
後見 孫太郎

名主 源太郎殿

(以上東家符丸録課主任官家屋  
敷證文帳(自主改上)  
至天保七)



巻紙

生書

此は佛御附紙、三途奉承和評、成候處、前條三重質之儀、  
金主に以り、取相候上、取教、家身、成田相、通、十作、以り  
し年期之内、金主之地、以候處、最初質入り、以候儀、  
陳兩方之家守、成或三重、十作、を、請候、取質、入、地、面、  
全、自分、田、佃、と、傳、り、二、重、質、信、候、事、申、候、書、入、之、儀、  
宜、三、通、全、子、返、濟、不、致、候、  
地、以、屋、敷、等、可、相、後、由、之、證、文、  
亦、其、地、屋、敷、等、先、に、没、立、候、筋、無、事、在、二、重、に、書、入、候、  
迄、三、重、質、と、  
譯、直、候、留、書、入、之、方、一、等、輕、く、本、上、文、  
之、通、申、上、候、途、可、思、哉、  
存、在、候、  
付、猶、又、奉、伺、候、

二、不動産、書入、の契約、之、依、り、成、立、又、此、契約、の、  
下文、作成、  
ア、ル、コ、ト、ヲ、必、要、ナ、リ、又、書、入、ノ、目、的、ニ、  
付、セ、ラ、レ、  
不動産

一、法律上書入、ノ、自由、  
下、  
限

〔商書〕下

世帯内、家質、金、借、日、限、定、  
屋敷、取、上、  
事

交保、  
三、手、  
一、并、  
飲、  
屋、  
敷、  
家、  
質、  
入、  
及、  
出、  
入、  
候、  
に、  
付、  
て、

但書、  
入、  
に、  
付、  
し、  
金、  
主、  
借、  
り、  
候、  
も、  
家、  
質、  
屋、  
敷、  
内、  
出、  
入、  
事、  
主、  
日、  
押、  
也、

三、書入、  
之、  
依、  
り、  
擔、  
保、  
カ、  
レ、  
タ、  
ル、  
債、  
権、  
ノ、  
書、  
入、  
金、  
ト、  
云、  
フ、  
書、  
入、  
金、  
ノ、  
債、  
権、  
者、  
其、  
債、  
務、  
者、  
場、  
所、  
ノ、  
場、  
合、  
ニ、  
於、  
テ、  
書、  
入、  
ノ、  
目、  
的、  
物、  
ク、  
自、  
ラ、  
有、  
三、  
條、  
セ、  
レ、  
ル、  
權、  
利、  
ヲ、  
有、  
ス、  
書、  
入、  
金、  
辦、  
済、  
ノ、  
許、  
アリ、  
シ、  
ト、  
キ、  
裁、  
判、  
不、  
一、  
通、  
常、  
ノ、  
借、  
金、  
ニ、  
准、  
シ、  
三、  
十、  
日、  
ノ、  
期、  
間、  
ヲ、  
定、  
メ、  
テ、  
辦、  
済、  
ヲ、  
命、  
ジ、  
若、  
シ、  
期、  
間、  
内、  
一、  
部、  
ノ、  
辦、  
済、  
ア、  
リ、  
タ、  
ル、  
ト、  
キ、  
其、  
殘、  
額、  
一、  
ヶ、  
月、  
二、  
回、  
ノ、  
切、  
金、  
ヲ、  
以、  
テ、  
辦、  
済、  
ス、  
ル、  
ト、  
キ、  
コ、  
ト、  
命、  
ジ、  
猶、  
不、  
慮、  
方、  
ノ、  
場、  
合、  
ニ、  
於、  
テ、  
ハ、  
債、  
務、  
者、  
ノ、  
身、  
代、  
限、  
ニ、  
至、  
ス、

御座書下

(冊三) 借金銀取捌之事

一借金銀

一兩金銀

一官金

一書入金

(甲略)

一御家人外の御用座所人等

并欲座敷地代店賃之書入金を借り候數

定書三年程

右之令座敷元を年々以末之滞り毎月四日廿一日呼出三十日

限満方可申付右日限之節少々相滞候も一月兩

度先切金に為差出其上之滞り方不増候も身躰限

可申付事

(上略)

四書入金ノ傍祐者一五書入ノ目的ニ依リタル不動産ヲ

再々他ノ傍祐ノ擔保ニ依ルコトヲ行ハ

ノ實地ヲ參照

五純然タル不動産ノ書入ノ外猶特種ノ書入ニアリ其一ハ

特種ノ營業權及匠業權等ヲ併セテ書入ノ目的トスルニ

是ナリ例ヘバ髮結床(理髮店船床)船上ノ理髮店ノ書入

ト稱スルハ其營業ノ株權及若業ニ属スル一別ノ附屬物

ヲ書入ノ目的トシタル者ニ外ナラズ其種ノ書入ノ家賃

ニ准シ家賃金訴訟ノ法規ヲ適用スベキモノトセリ但シ

天保十三年ノ改革ニ依リ髮結床船床ノ株札ヲ停止シタ

ルガ故尔後此種ノ書入が消滅シタルコトヲ知ルべシ

六、其二の債務者が不動産ノ賣渡證書ヲ作成シテ之ヲ任梳者ニ交付シ以テ任梳ノ擔保ニ供スルノ方法ナリ是佐中上ノ世襲ヨリ云ハバ不動産其者ノ巨有リ紛踏セザンガ故ニ是レ亦一ノ書入タルユト疑フ可テ然レバ任梳ノ擔保ニ因ル法律上ノ取扱ハ時代ニ從テ屢々變遷ヲ示セリ即チ延享三年前ニアツテハ任梳ノ擔保ハ家質ニ准ズベキ者ト定メタリシガ延享三年ニ改メテ書入ニ准ズベキモノトシ文化十二年ニ更ニ舊制ニ復シ天保十三年上月ニ再ビ延享ノ制ヲ継キ今年十月ニ及ンデハ其特定ノ形式ヲ有スル者ニ限り家質ニ准ズベシトノ例外ヲ設ケタリ

〔決定書〕下

(西六)家質金滞日限定

一 髪結床廻リ場或船床書入證書 家質ニ准金高ニ應シ日限條方可申付

但日限之上相滞候ク證書之ハ相渡サセ下申事

〔科條類典〕

延保又四年十月改寫越年午名可上任算水野對馬守伺之内  
(西六)内(向)家質(屋滞)日限定

(上略)

一 家藏賣渡證書之金上傷り候數 家質ニ准金高ニ應シ日限條方可申付

但日限之上相滞候ク證書之ハ相渡サセ下申事

朱書  
但書例

× 是ニ家質十巴年丸山田町市郎兵衛家質以金上傷り候處日限申付候上滞存家質金上相渡サセ候

襦紙

又

朱書  
是二令迄三取計之趣を以相程申候

〔諸事留〕

延享三年丁綱某

伺三座所願下申付各所仰返り畏候  
宣三月十八日

島長門守  
張勢肥後守

（約略）

一直年家後所乃具書後陸文を以令銀貸出し候様多有  
三候由家質とい遣し名王加印も無く畢竟書入金之  
候三候間貸屋同様之裁許三可申付候  
但能床結髪床後候格別之事

右之趣所中可解知也

三月

〔吉張紙〕

文化十二年

金公事本公事之差別評議

内相談書

永田備後守

尚定書傷金銀取捌條有之候名目之外金銀三出入出許  
いかし候節差日之候是迄聴と取極無三候間尤之趣  
極宜可申候

（甲遊）

一家夜尋書後金

是二年曆不相知評定以書留之内髪結床草廻場以  
舟床書八家夜看夜陸文性成質知右四條家質  
三淮一候事日限迄不相濟おふゝ其為乃後候事

と有三候間本公事差日之様

(下昭)

右(通)文化十二庚三月廿五日一昼評御札

諸事箇

三月三日午五月廿三日

髪結床株并家作書入全出入裁許之儀付相誤書

甲斐守殿

遠山左衛門尉

別紙加存朝負より同合三趣迄々取柄中紹市株札同屋  
仲間組合等停止之儀御仰出髪結株札之取上候上  
別紙之通一昼相誤之上及挨拶候様下迄之儀候存  
候依之右書敷相添及御相誤候

寅五月

下札

御書面并別紙裁書敷一覽見以候處拙者候所之存  
寄與之候依之及御挨拶候

寅五月

鳥居甲斐守

御相誤書

遠山左衛門尉

鳥居甲斐守

駿府兩替所より同権次郎より安西より同髪結伊兵衛江相  
懸候髪結床株并家作書入全出入裁許御書面三株合  
加薩朝負より同合有之候付控文等一覽致し候處髪  
結床株兼渡三揚銭受取之對談三有之候間御定之通  
家賃三在し日限済方申付候得候様候床下相誤上  
の三候處令般湯屋髪結之款株札勿論組合仲間等  
相唱候儀令停止候旨之御書付御座有之其段所節

以かし株札も取上候に付以後發結床書入出入願出候共  
家質に挂し日限濟方可申付節に無之候間家持諸  
道具等活禮文を以貸出候に銀に貸金銀同様之我  
許に可申付旨迄三年可觸有之候間右邊に准し  
鬚袂床書後も以未貸金同様三十日限濟方切金に申  
付候方取極右に懸る以駿存付奉行に及換抄候様可  
致候哉及尚相談候

富、五月

### 天保御改革要扱

富十月朔日(天保三年)

越前守殿進上連

卯五月廿五日

越前守殿下下

金銀出入裁許改革之儀取申上候書付

(初略)

一 慥成勞物等以借候金銀

右御定書に家質に准し金高に懸し日限濟方可申付と

有之家持發渡禮文の書入金に准し取扱候得共所役

人親類總代連印有之今も家質に准し金高に懸し濟

方申付沽券状を發了借候金銀も町役人在印無之

候得借金に准し取捌來候旨並に三通裁許可

申付候

(下略)

○ 前文に家質に准し又借金に准し云々ト云レバ家持尾借  
金等取計裁許の法規ヲ准用スルコトヲ意味ス

(四) 小作

一 小作トハ小作料ヲ工耕ヒ他人ガ所有スル田圃又ハ占有スル  
田圃ヲ耕作スルコトヲ云フ

二 小作ノ契約ニ依テ成立スル契約ハ文書ヲ依テスルヲ普通

トスルニ其體格ハ小作ノ種類ト作テ異ナリ

(四) 方凡例録 一 小作ニ奉 小作トハ自今新法ニ由リ

至居村他おより共他マ互姓ニ預ル作又ハ田圃賃ニ取テ地主

而モ別人ニ寄ル小作以テモ年費ノ外ニ米米入上米杯ト云ハ

又ハ何種ト作種ニ種作ラるト云ハ 中略 往交圃原ハ一筆

限原何田圃所及何畝歩何ク而務ク故中作ハ年費福後勤

上ト作入上米米何種可差出差得ルハ何時成トモ地圃

而上小標定前一言ク其申有交与地主ト作人ト作

文差出年季ト種作ト有ハモ年費得ク此モ有シ

或ハ年費福後共地主方ニ寄勤小標檢ハ年費福後米

米米共是及何種ト俵敷餘計ニ地主は物ヲ種ト有ハ是ト

云ハ米ト云ハ種米ト云ハ

三 小作ノ種類ハ永小作、名田小作、屋守小作、直小作及ハ別小

作、五種トス前三者ハ他人ハ所有スル田圃ノ小作ニシ

テ後二者ハ他人ノ占有スル地圃ノ小作ナリ

(一) 永代小作 永代小作トハ他人ノ所有スル田圃ヲ無年

季ニテ耕作スル小作ヲ云フ此種ノ小作ハ文書契約ニ依

テ成立スルコト通例トスルニ又書作成ハ必ズシテ権限成

立ノ要件ニテラズ永代小作地ノ地主ハ小作料ガ著シク

俵得ニタリ場合差ヒテハ小作人が重大ナル不法行為ヲ

ナシタハ場合ノ外ハ作権ノ没却リ請求スルコトヲ得ル  
永代ハ作権者ノ死ニ作死ヲ墮入ノ目的ニ供シ又ハ作  
権ノ没却ヲクモスルコトヲ得ル

四 方凡例録 一 直小作といふハ質地ニ作主無ク自外而  
持主田畑年季無ク敷地年小作改定といふ永小作ハ  
地主ニテ無謂地面取上外之ものは作主或ハ没却若シ作主  
滞地主ハ諸公ニシテ作主ハ時上ニ依通済方付作  
作ハ為ニ之通改定凡年季滞不持シハ河筋有シ取主  
何モ格別ニ不持主田畑有シハ地面取上地主ニテ改定作  
主未禮交着ハ別ニ替テ事場シ尤永小作人方ニ墮入ス  
別人ニテ作主没却ハ勿禁ナリ而時主永小作トシテ或方々檢  
年トシテ長年季ニテ改定

刑銭須起 永小作 右ニ先祖代ニ所授年モ心算ハ何カ  
何及年季末没却世世ニ相贈禮文トシテ禮文者取主ハ  
以款又ハ書物等ニテ所授年季モ心算ニ作主年季末  
没却取不取ト有シハ地親ニ終ニ不域有来ニ過ニテ  
乃作主ハ又相對ニ此年季末没却世世禮文トシ  
金カモ有シハ是ト永小作ト唱ル事

二 名田小作、名田ハ作主トハ他人ノ所有ラン田畑ヲ二十  
年以下ノ年季ヲ主トテ耕作スルハ作主云フ此契約ハ中  
作權者トシテ之レニ準スベキ文書ヲ以テ保証スルコト  
ラカレバ所授ノ生利分満中者ガ二十年以上ノ年季ヲ主  
トシテハ作契約ハ永小作ト見做リ

地方凡例録 一 名田小作トハハ質地ニ作主ニテ改定

相多く改訂抄手作ニ命り、中百姓に数年の作位を名  
田中作と唱へ、交抄手以上ニ成り、永中作ニ准之、及出入之  
時、禮文有之、領地ニ付、取定及領地、禮文ニ無之  
帳目ニ付、形於無之、八地ニ不合、付之取上

〔海空書〕下

〔四〕實地取捌之事

一 交抄手以上ニ名田中作ハ

永中作ニ付付

〔三〕家守小作、家守トハ小作ニ付シタル田相ノ所有者ガ  
擔任シタル中作地ノ管理人ヲ云フ此管理人ニ付シテ報  
酬トシテ土地ノ一部ヲ中作トシタル場合ニシテ家守小  
作ト云フ此中作ノ特徴ハ小作人ガ中作地ノ管理人タル  
コト可契トシハ必ズ家守様状ナル文書ヲ作成スルコト

及ハ小作地ニ賦課セラルベキ租税ハ必ズ地主ガ負擔ス  
ルコトトシテ三兵ニアリ家守様状ハ家守及ハ伴証人ノ  
連署シタル禮文ヲ云フ、單ニ小作造ヲ作成セル場合ニ於  
テモ臣文書カ様状ト同一ナルトキハ臣契得ノ効力ヲ妨  
ケズ

〔四〕方凡例條ニ家守小作ト云ハ田相及列多ク中作ノ入將地  
主世後廟兼小作ニ世法人ト先人附ミ世法為故中作地ニ  
内何及歩トシ、極メ家守統ニ為作年表後役、中地主ハ  
勤ル、尤諸人ハ家守様状取之家守統ニ外踏中作ニ  
外並小作禮文指出示サシ、若シ中作様及出入ニ時、中作  
禮文ニ諸人カ平有之、ある様状應リ、中作禮文凡ハ  
兩人、諸人、諸方中付於場、而人共身代限中付付リ

兩定書下

(世) 質地土作取捌之事

一家守土作階後狀三通無相違に  
たゐてハ

多人請入共三語方申付  
傳候得ハ兩人共三身辨  
限可申付

四直土作

直土作トク自己ノ田相ヲ質入シタル者ガ質  
入ノ期間内自カラ土作スル場合ヲ云フハ土作ハ土作證  
ヲ作成スルカ又ハ質入ノ證文ニ土作ノ文言ヲ記載スル  
ニアラハレバ祈權ヲ生ゼズ

和方自例條一、直土作といふハ田相を質入地並に改土作  
をいふ土作證文を季ハ質地年季ニ准充土作モ別ニ土作  
證文無ク共質地年季證文ニ致土作恒古入有之ハ出入

季ノ節相立事ナリ

兩定書下

(世) 質地土作取捌之事

一土作證文無之候共別土作無相違

本證文定法三通候ハ

質地年季取替申付土作  
證ニ不申付大地面土作人  
トハ地ニハ可別渡

但直土作ニ而證文無之分書入ニ准本證文直候共質地  
之法ニハ裁許不申付事

一土作證文無之候共質地證文  
土作之儀書加有之候ハ

質地土作共不申付

別土作、別土作トク質入田相ヲ質入主以外ノ者カ土  
作スル場合ヲ云フハ土作ノ證文ヲ作成スルニアラガレ

所権ヲ生マカ小作権存続ノ期留メ質入ノ期留メ熟一丁  
ル以内ニ飛テ當リ者ノ自由ナリ

小作地ト小作人ノ住而トガ互ニ村ヲ異ニスル場合ニ  
此小作ヲ移シテ入小作ト云フ性質ニ至ラハ一畝ノ場  
左ノ異ナル所ナリ

〔地方凡例録〕一別小作ト云ハ田畑等ニ取地主ニ不攝金對  
他三者任小作陸ニセラ云徳文ハ年季ニ季老ト年限ニ命  
小勝手次方ニイコバ

一入小作ト云ハ他村ヨリ陸小作ト入小作ト唱別小作ニ任情  
ノ習ナ事也

六小作地ニ賃課セラルヤキ租税ノ質権名ノ小作ノ種類ニ  
依テ異ナル家守小作ニアワテハ地主直小作ニアワテハ

質取主ニテ質權スモ他ノ小作ニアワテハある者ノ契約  
又ハ慣例ニ依テ定ムル

口質地ノ部参照

七小作地ヲ分三者ニ課税シ若シテ質入レノ目的ニ供シ  
タル場合ニ飛テ其權受人又ハ質取主カ前小作人カ引續  
キ小作ヲナスコトニ同意ナルニ非レバ前小作権クハテ  
權受人又ハ質取主ニ対抗スルコトヲ得ズ

〔地方公裁録〕

文政十一年  
質取地小作之儀ニ付同

三月廿七日石川主水正宅内寄在おのし評決大費次右衛門同  
百姓困窮ニ追テ村之田畑質ニ差入直小作路シ店年季以  
務度兼流地ニ致シ候共右地跡引續小作地ニ候處後々

地主不如意ニ相成右地以又外質ニ差入是又流地相成候ニ  
度目ニ金土百姓ニ而以持三地以作足不申若書流地之  
地以以同一手作可成旨申聞候御是迄敷十年七作路  
來先々地主社取放候而も難儀之趣申立候共當地主手  
取作路し方設申立候上ハ刻拾ノ年三拾ノ年七作路し候地  
以三候共取放可申哉之設伺

此儀御定書ニ貳拾ニ年以上之名田十作ハ小十作ニ可申付有云  
候處右ノ質地之十作ニ而ハ無之由相爰ク以持路し候七の  
年作ニ修り候ニ付十百姓江毎年十作ハ路空候處十作  
次第取立以地取戻度有地並より訴出候時之取捌  
ニ而右跡並分取拾ノ年條十作ハ路空候地以地主江取  
戻候儀不相成矣張十作人何年モ十作ハ路空候儀徳滞  
濟方申付候取計ニ有之今叙次右衛門相個候趣

質地ハ入候地以地主五作路し流地迄々又質ニ成候  
而ハ先張最初ニ地主十作路し候處末之質取立ニ至リ小  
作ニ不相成手作可成旨申立候と若書小作ハ是近  
引續地以作垢候縁と以永也作と心算地以雖相取旨  
右十作人より訴出候節之取計ニ相空候得共素より質地  
ニ拾ノ年以上ニ毎年無之上ハ小作モ右准し質年季より  
條計ニ十作年季而相空申得無之殊ニ地主相替  
候節七也作程文書替可申付勿論之儀尤候得共其  
時々十作人モ相改候爲ニ而假令身分ニ素より也者ニ而  
も質取立相替候上ハ引續候小作之筋無之是上小作  
ハ質取立之了簡次第ニ儀相對ハ格別无地並若小作  
致し素候共是以素より質地ニ差出候程之儀畢竟

年季昭瑞度相成事候上ハ流地可相成ハ是定候事  
ニ而實地ハ必定直小作而己ニ可相限釋<sub>テ</sub>無<sub>ク</sub>若初<sub>キ</sub>より  
惣而王手作又ハ若小作等<sub>ノ</sub>後金流地相成候<sub>ク</sub>也  
節若早地<sub>ハ</sub>ニ可相離理<sub>ル</sub>事<sub>ニ</sub>而本丈<sub>ハ</sub>之<sub>ハ</sub>趣<sub>ハ</sub>全く  
名田小作<sub>ハ</sub>之<sub>ハ</sub>意味<sub>ハ</sub>之<sub>ハ</sub>混<sub>ル</sub>候<sub>ハ</sub>作人<sub>ハ</sub>之<sub>ハ</sub>申<sub>立</sub>方<sub>ト</sub>相成候上  
ハ或<sub>ハ</sub>拾<sub>ケ</sub>年<sub>三</sub>拾<sub>ケ</sub>年<sub>小</sub>作<sub>路</sub>キ<sub>未</sub>候<sub>ハ</sub>雙方<sub>引</sub>流<sub>候</sub>譯  
ニ無<sub>ク</sub>候<sub>ハ</sub>同<sub>惣</sub>而<sub>直</sub>了<sub>簡</sub>次<sub>分</sub>之<sub>ハ</sub>心<sub>得</sub>以<sub>可</sub>取<sub>計</sub>旨  
合下知候事<sub>ニ</sub>有<sub>之</sub>候<sub>。</sub>

○小作地が流後し又ハ惣入<sub>ル</sub>カ<sub>ク</sub>ん<sub>所</sub>在<sub>ニ</sub>存<sub>ケ</sub>ル<sub>ハ</sub>小作權<sub>運</sub>令  
ニ就<sub>テ</sub>之<sub>ハ</sub>未<sub>分</sub>之<sub>ハ</sub>分<sub>ケ</sub>ル<sub>ハ</sub>材料<sub>ヲ</sub>取<sub>見</sub>也<sub>ハ</sub>暫<sub>ク</sub>若<sub>創</sub>ニ就<sub>テ</sub>也  
一<sub>端</sub>ヲ<sub>示</sub>ス<sub>ル</sub>シ

八小作料息納ノ許アリシトキハ裁判<sub>ハ</sub>之<sub>ハ</sub>實地<sub>ニ</sub>依<sub>テ</sub>擔保

サレタ<sub>ル</sub>ん<sub>債</sub>者<sub>實</sub>地<sub>金</sub>ノ不<sub>償</sub>リ<sub>ノ</sub>許<sub>ニ</sub>准<sub>シ</sub>特<sub>定</sub>ノ日<sub>限</sub>リ  
定<sub>メ</sub>テ<sub>ハ</sub>小作料<sub>ノ</sub>支<sub>拂</sub>ヲ<sub>滞</sub>シ<sub>權</sub>新<sub>納</sub>ナ<sub>キ</sub>ト<sub>キ</sub>ハ<sub>ハ</sub>小作人<sub>ヲ</sub>  
身代<sub>限</sub>ニ<sub>處</sub>ス

〔流<sub>金</sub>畫〕下

（卅一）惣<sub>金</sub>地<sub>ハ</sub>小作<sub>取</sub>捌<sub>三</sub>事<sub>ト</sub>

免<sub>保</sub>元<sub>年</sub>限<sub>。</sub>  
一<sub>カ</sub>作<sub>節</sub>

實地日限<sub>之</sub>通<sub>申</sub>付<sub>其</sub>上<sub>相</sub>滞<sub>候</sub>ハ<sub>ハ</sub>身<sub>許</sub>限<sub>可</sub>申<sub>付</sub>

虚<sub>加</sub>  
延<sub>享</sub>三<sub>年</sub>稅

但<sub>作</sub>惣<sub>之</sub>候<sub>金</sub>米<sub>共</sub>ニ<sub>金</sub>主<sub>ハ</sub>作<sub>人</sub>極<sub>ニ</sub>通<sub>流</sub>方

可<sub>申</sub>付<sub>事</sub>

凡<sub>該</sub>地<sub>ノ</sub>小作<sub>ハ</sub>實<sub>地</sub>が<sub>高</sub>估<sub>ナ</sub>ル<sub>カ</sub>又<sub>ハ</sub>適<sub>估</sub>ナ<sub>ル</sub>ト<sub>キ</sub>ト<sub>雖</sub>  
モ<sub>ハ</sub>小作<sub>權</sub>が<sub>適</sub>估<sub>ナ</sub>ル<sub>ト</sub>キ<sub>ハ</sub>小作<sub>料</sub>息<sub>納</sub>ノ<sub>許</sub>權<sub>リ</sub>生<sub>セ</sub>ル<sub>カ</sub>

〔科條類典〕

質田出入(産申合三覽)

主係十年三月

一質田之本證文取上無之分コト作淨取上申同科条

(下略)

右三通評定形二産評取之上相極

〔満宜書〕下

〔廿二質田作取捌之事〕

一質田證文之文書宜作證文不持候

質田宜取之  
通我評取持  
分不申付

大小作の田畑ヲ耕作セル場合ニ限ル一室ノ對價ソ支拂フ  
テ山地ノ使用收益ヲナス場合ニハ少ク部山福山ト云フ

其性質田畑作れ作れ類ス

〔地方凡例鑑〕一、部山福山之事 部山といふは外村より山  
手米を賣し場而を室ヲ入束と云ふ永也作以故ニ而年季  
も無くあり。今束有地を村ニ賣り取上候不取成證文  
といふは他村に山を賣賣を限證文を入り何年季ニシテ  
極ノ山手米永指出入と云ふ是ニテ作同様なり。永ト  
云候ナ

地借及店借

一、地借トハ土地ノ貸貸借ヲ云ヒ店借(又ハ借屋ト云フ)トハ  
家屋ノ貸貸借ヲ云フ賃借人が賃借人ニ對シテ支拂フベ  
キ賃金ハ地借ノ場合ニハ地代ト云ヒ店借ニアツテハ店  
賃(又ハ宿賃)ト云フ

二、土地ノ行有者ヲ地主ト云ヒ家屋ノ行有者ヲ家主(又ハ家  
持ト云フ)土地家屋ノ賃借人ハ必ず地主又ハ家主トテサ  
レ可ラズ然レ家主ハ必ずシモ同特ニ地主タルヲ要セズ  
三、地借店借ハ契約ニ依リ成立スル契約ハ地請狀(店請  
狀)ハ文書ノ作成アルコトヲ要ス請狀トハ賃借人ト保  
證人トカ連署シテ賃借人ニ交付スベキ證書ヲ云フ

四、地借又ハ店借ノ契約ニハ借入モ權利ノ存続期間ヲ定ム

ルハ借入者ノ自由ナリ然レ最モ普通ノ場合ニアワテハ  
別ニ期限ヲ特約スルコトナク何時ナリトモ借入者一方  
ノ意思表示ニ依リ契約ヲ解除シ得ベキモノトセリ之ヲ  
地立店立ト云フ又地代店賃が停滞シタル場合ニ於テ賃  
借人ハ店立地立ヲ請求スルノ權ナリ

五、地代及ビ店賃ハ月拂ナルヲ例トス地代又ハ店賃(總納)  
許アリレトキハ裁判所ハ三十日ノ期限ヲ定メテ辨償ヲ  
命ジ其期間内辨償ナキトキハ更ニ地金ヲ命ジ猶不履行  
ノ場合ニハ身代限ノ宣告ヲナス

○徳川時代ニ在リ地借店借(店舗)ニテハ租立ノ建家賃借  
ノ場合ニハ租立店賃ト稱シタルノ當時ノ例ナリハ浮浪人取締必  
要上嚴格ナル制限ヲ加ヘタリ即チ地主又ハ家主ハ確實ナル保

詮人アル者ニ科トテ為スニアツカシバ俵貸ノ契約ナラズ  
トテ得ズ故ニ其契約ニ必テ請状作成一コトヲ必スルコ  
トナリ今是ニ関スルニ三ノ法冷テ採録スル  
天成全

天和三年九月

店借候節請人に念を入徒との差置同敷也

覺

一所中店借候ノ彌店請人に念を入取置可申候様ニ無  
之者に店借申同敷候に付らとの差置候ノ大屋勿  
論品により主人組名主迄も由事可申付候主人組相改互  
に店三者吟味可任事并出居敷差置候共諸人取  
慥成りの置可申候徒との差置候ノ是又大屋主人

但名主一掛り可申候事

一店借之者も主人但を相改互に吟味不見届者互々候ノ  
家主名主は可申之隠置候ノ可為由事名主大屋取引  
無之に在るハ由引可申出事

一所内に有之は番付非人等迄吟味若見付ても  
の有之候ノ所内より可申出之見のかしに仕候ノ可為  
由事

右之通相解候上者も所切に人別帳を以てに相改毎月  
町守等方迄相届可申候自今以後徒者出候ノ科之輕重  
により名主主人組大屋店之主人組迄急可申付者也

九月

〔權要永久録〕

安永八夏年八月二十日

並上方武家方家来等之目録に町住居之者乱方

清書付

大目付に

都而町々地借店借之者差置候節に家主相亂地請人店  
請人取置候事候得共亂方等閑成も相聞傍浪人  
者等差置候之別事大念出以等疑と相亂貸可申候様  
武家之家来に候共所家に住居候上者町並之家作に  
可成事候若所家不相應之家作等致候欲且高利金  
杯貸候者も有之感の者上方並武家之名目之借家来  
分而住居候もの又の者上方家来に而も永々茲寂宿居候  
もの有之候了相亂浪人勿論者上は武家方家来に候  
共其改家来より可申出候若乱方未熟に可外より相  
知候了其家主急可申付候

右に並町々に相觸候間為心得相違候

八月

右に趣可取相觸候

○徳川時代ニ於テ土地字居ノ借付候ノ今日ノ如ク歎聲ナリシ者  
ニ非ズ當時武士ニ并借屋敷アリ所人ト各ノ持持ノ町屋表  
下リ故ニ借付必取下リシ者ハ浪人但國者着シクハ借付者  
ノ數ニ多カリシナリ是レ當ニ為意スニキ占ナリ○當時家  
主ニ必ズシテ同時ニ地主トシテ要ヤカリシコトハ諸法合ニ地  
主家主ハ廣ク封地封地サレタリニ依ラズナリ次ノ諸例ヲ見ルニ

〔南定書〕下

(三十九) 身躰限申付方之事

字保六年花

一 二店借候ハ、

家財取上

但地借にて家作。自分仕任能く家財家作

共取上可申事

(四十) 隠女賣女御仕任三年事

字保七年

字保三年花

一家主

身上ニ想し過料之上百日手鎖隔  
日封印改

字保九年花

但家主建置候家産有之候。五々年之内店賃

相納させ可申候

字保三年花  
一地主

五々年之内家産敷取上地代店賃

為相納五々年過候。元地主に可

符区下

但外ニ罷在候共有同割ニ取計り又候。賣女並能く

同様ニ申付。地ニ申付。買取候

追加

字保三年花

一 踊子呼寄賣女。改候料理茶屋

改修

追加

一家主

追料

追加

一地主

重追料

但地主。以不罷在。他ニ罷在候。此リ

(五十三) 三笠附博奕打取。退無盡。滿仕任三年事

追加  
從前々之例

二三笠附博奕打取退無<sup>レ</sup>尽<sup>レ</sup>之儀所<sup>レ</sup>召<sup>レ</sup>主五人組等訴  
出候<sup>レ</sup>當人并家主<sup>ノ</sup>清仕在申付地<sup>ノ</sup>地<sup>ノ</sup>面<sup>ノ</sup>及取  
上急度比<sup>レ</sup>宿<sup>ノ</sup>宿<sup>ノ</sup>兩隣五人組各王<sup>一</sup>町内<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>及答  
○在<sup>レ</sup>店後状<sup>ノ</sup>書式<sup>ヲ</sup>掲<sup>ク</sup>地後状<sup>ノ</sup>書式<sup>ヲ</sup>未<sup>レ</sup>詳ナラ  
ズ

店請状之事

一此何右衛門<sup>ノ</sup>申者生因<sup>ノ</sup>能存慥成者申座<sup>ノ</sup>間松  
者諸合貴殿清店表間<sup>ノ</sup>三間奥行<sup>ノ</sup>四間半<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>處借申  
中<sup>ノ</sup>而<sup>レ</sup>実<sup>レ</sup>正<sup>レ</sup>也<sup>ノ</sup>店賃<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>儀<sup>ト</sup>是<sup>レ</sup>月<sup>三</sup>拾<sup>五</sup>日<sup>申</sup>座<sup>ノ</sup>申<sup>付</sup>改  
承<sup>知</sup>申<sup>付</sup>每<sup>日</sup>晦<sup>日</sup>浪<sup>無</sup>相<sup>違</sup>差<sup>出</sup>可<sup>申</sup>座<sup>ノ</sup>申<sup>付</sup>若<sup>シ</sup>在<sup>座</sup>外  
節<sup>ト</sup>松<sup>者</sup>方<sup>ノ</sup>相<sup>違</sup>可<sup>申</sup>座<sup>ノ</sup>申<sup>付</sup>且<sup>又</sup>清店<sup>申</sup>入<sup>用</sup>節<sup>ト</sup>  
之<sup>レ</sup>何<sup>レ</sup>時<sup>成</sup>共<sup>無</sup>違<sup>滞</sup>早<sup>ク</sup>取<sup>扱</sup>可<sup>申</sup>座<sup>ノ</sup>申<sup>付</sup>事

一清公候様清法度<sup>ト</sup>及<sup>申</sup>清町並<sup>ノ</sup>通<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>密<sup>何</sup>事  
之<sup>レ</sup>相<sup>違</sup>申<sup>付</sup>官<sup>交</sup>候<sup>儀</sup>又<sup>止</sup>宿<sup>之</sup>者<sup>申</sup>座<sup>ノ</sup>申<sup>付</sup>一夜<sup>成</sup>共  
申<sup>付</sup>中<sup>立</sup>差<sup>申</sup>座<sup>ノ</sup>候<sup>儀</sup>任<sup>可</sup>申<sup>付</sup>事  
一宗旨<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>儀<sup>ト</sup>代<sup>レ</sup>何<sup>宗</sup>而<sup>何</sup>寺<sup>禮</sup>那<sup>ニ</sup>而<sup>則</sup>寺<sup>請</sup>状<sup>取</sup>  
座<sup>中</sup>清法<sup>度</sup>之<sup>レ</sup>宗<sup>門</sup>而<sup>テ</sup>決<sup>而</sup>無<sup>ク</sup>座<sup>在</sup>候<sup>儀</sup>寺<sup>請</sup>状<sup>取</sup>  
申<sup>入</sup>用<sup>ノ</sup>節<sup>ト</sup>差<sup>出</sup>可<sup>申</sup>座<sup>ノ</sup>申<sup>付</sup>惣<sup>而</sup>以<sup>者</sup>身<sup>分</sup>付<sup>可</sup>何  
様<sup>ノ</sup>候<sup>出</sup>未<sup>仕</sup>候<sup>儀</sup>共<sup>拙</sup>者<sup>増</sup>取<sup>候</sup>貴<sup>殿</sup>方<sup>正</sup>少<sup>候</sup>御<sup>苦</sup>勞  
掛<sup>合</sup>取<sup>可</sup>座<sup>ノ</sup>候<sup>儀</sup>店<sup>後</sup>状<sup>取</sup>何<sup>様</sup>候<sup>儀</sup>

年号 月 日

何<sup>町</sup>何<sup>右</sup>衛<sup>門</sup>之<sup>店</sup>  
請<sup>人</sup> 吉<sup>兵</sup>衛  
店<sup>借</sup> 善<sup>兵</sup>衛

鶴<sup>右</sup>衛<sup>門</sup>之<sup>殿</sup>

(右并増益都會節用百家通上卷所載)

○持付屋敷ヲ親族ニ借付スルトニ於テ二三ノ法令下リ然レ  
ト場合ニ借付借ノ関係ニ違ヤセトモ見テ不故ニ今之ヲ略ス○  
地代店賃ノ関ニ法令ノ一二ヲ示ス決シ也、

天成念

元文乙辰辛六月

地代店賃無滞可差出旨町端

一近幸地借店借之者共地代店賃相滞不差出ト有之  
別而此節世上一同に地代店賃不差出候由不届候地代  
店賃之儀ニ不差出候亦ハ不叶事候間無滞ト之度可  
差出候若相滞におおては地主家主より町申出候急ニ  
町申付候

右之趣町中可解知也

六月

〔済定書〕下

(三) 借金銀取則之事

一 地代金

一 店賃金

三十日限借

方可申付事

右同例

従前之例

右ニテ借日限に不相滞候者、地金ノ差出其上滞方不  
届候は、身躰限町申付事

六、地借ト其性質類似シテ而シテ限視スベカラザル者ト并借  
地ナリ、<sup>土地</sup>持借<sup>地</sup>トハ公有ノ土地ヲ人民ノ出願ニ依リ特定  
ノ条件ノ下ニ使用セシムル公ケノ處分ニ基ク故ニ私人

對等ノ間ニ於テスル貸借契約トハ自カラ別種ノ關係ニ

屬ス

七、持借地ノ人民ノ出願ト許可トヲ要ス許可ヲ受ケタル者  
ハ更ニ請状ヲ差出テカハ可ラズ許可ニハ一定ノ期間ト  
條件トヲ付スルヲ例トス其條件ノ主タル者ハ借用人カ  
幕村ニ對シテ辦納スベキ地代(莫加金)上納金及びその他  
ノ負擔ヲ定ムルコトニテリ

○参考ノ為持借地請状ヲ採録ス

差上申請書中事

一、衣共儀古來ハ水道橋外西ニ方御田川端通ニ葦葎  
箒張下馬賣湯茶高渡世仕神田川出水ニ節節上  
水掛樋水防人足ニ罷出

清成ニ寄同前惣揚場等掃除仕平天任十四年右場  
所請取掛証仰渡外処今敏格別ニ清成悲至以同前  
而長四拾間幅四間之葦葎張地以當己年ノ末止成  
年迄中年七ノ年季持借証仰付モテ年為清成代  
金九百兩貳分銀六匁宛年々七月十二月兩度ニ前上納  
仕且法上水掛掛樋水防人足并

清成ニ即惣揚場掃除手入念可相勤旨仰渡雖  
有仕右奉行小尤登之内計湯茶高之外酒食取次  
高等決而不仕夜中禁々見廻火之之格別ニ三念  
不取歸ニ儀無之様仕別代而給回面朱引内異費  
ニ候者私共引請取付可申旨是又被仰渡在畏ハ  
可成而請書差上申込似如件

弘化三年十一月

本郷元町

字三郎

繁三郎

牛込注久戸前町

介八后

惣兵衛

(四下十人直署)

為書假仰治小趣速々在畏小尤兩年季中后替  
お仕小了其云之而許可申上十高之向上納相傳  
以了為書指傳之者其一同分弁納可為仕旨是  
又相仰為奉畏小仍而誘状小件

本郷元町

左王二石馬〇

因下竹町

右王 煉兵衛〇

十高下番坂町

右王 敬四郎

後見

因下春日町

右王 長尾兼門〇

佛普請方

佛役所

(繪圖自略之)

呈上申佛請書三事

私甘候前々麻布新垣跡之炭薪揚場千貳百五拾  
三坪余之御地引取借之代上納仁奉小此天保丁四

介年古場下滿取拂上納済免候 仰付後世向差支  
 小付弘化三年年石地切持借存候小地申取調之上  
 高亥年迄中申申年季取之通取 仰付然此處  
 年季取之付高亥十月八日申十月迄中申申年  
 季引権存候存候小地取之通取仰付取而地代  
 其年申六兩三七月十月兩取之通取是迄之通  
 前上納任不取締之儀無之様任有借内異度之儀  
 七初引禱取計万一上納相淨山之様人引禱急  
 度并納可任旨候仰後雜有任左取畏小付取而禱  
 書美上丁石仍也件

嘉永四年二月廿二日

麻布新田分刻丁目  
 宗王

一人〇

八石五〇

諸人者吾也〇

各主

惣十郎様付

代

新島衛〇

飯谷新町

宗王

百助〇

諸人權三郎〇

各主

乙三郎〇

御普請方  
 御役衛

(以上集身符記係張王管諸登文留帳自化二  
至正改元)

三  
十  
五  
月  
十  
九  
日  
號  
存